

令和7年度鳥取県における
少子化対策等に関するアンケート
調査報告書

令和7年7月
鳥取県

目 次

第1章 調査の概要	4
1. 調査対象	4
2. 調査期間	4
3. 有効回答数	4
4. 報告書の見方	4
第2章 回答者の属性	5
第3章 調査結果	8
1. 結婚について	8
(1) 結婚の良い点・メリットと良くない点・デメリット	8
(2) 結婚についての意見・考え方	10
(3) 実際の結婚年齢・理想の結婚年齢	11
(4) 赤ちゃんや子どもとふれあう機会の有無	12
(5) 結婚に対する考え方	12
(6) 実際の結婚年齢に対する意識	13
(7) 結婚が予定より遅れそう・できそうにない・するつもりはないと考える理由	14
(8) 異性との出会いの機会の有無	15
(9) 他者から紹介された結婚に対する考え方	15
(10) 見合い、民間の結婚支援、公的な結婚支援の利用	16
(11) 結婚していない理由	18
(12) とっとり出会いサポートセンター（えんトリー）の認知状況	19
(13) とっとり出会いサポートセンター（えんトリー）に入会しない（できない）理由	20
(14) 結婚、交際されている方との出会い方	21
(15) 結婚の決め手となったきっかけ	22
2. 子育てについて	23
(1) 現在の子どもの人数	23
(2) 結婚（婚姻届を提出）してから第1子の出生までにかかった期間	23
(3) 子どもの学齢・学年	24
(4) 理想の子どもの人数と現実に持てると思う子どもの人数	25

(5)	子どもがほしいと思う理由	26
(6)	3人以上の子どもがほしいと思う理由	27
(7)	現実に持てると思う子どもの人数が理想の子ども的人数より少ない理由	28
(8)	子育てに感じる負担	29
(9)	子育ての経済的負担の大きさ	30
(10)	子育てにおける経済的負担の内容	31
3.	家庭と仕事の両立について	32
(1)	結婚、妊娠・出産、子育てと仕事の両立に対する職場の配慮	32
(2)	結婚や出産を機に仕事をやめた経験	33
(3)	結婚や出産を機に仕事をやめた理由	34
(4)	仕事と家事・育児の両立において難しかったこと	35
4.	地域子育て支援サービスの活動等について	36
(1)	地域子育て支援サービスの利用状況	36
(2)	地域子育て支援サービスの満足度	37
(3)	地域子育て支援サービスを利用できない・したことがない理由	38
(4)	地域子育て支援サービスの満足度が低い理由	39
(5)	地域子育て支援サービスの環境が整っているかの意識	40
(6)	子どもが安心して医療を受けられる環境が整っているかの意識	40
(7)	病児・病後児保育の利用	41
(8)	病児・病後児保育が利用できなかった経験	41
(9)	病児・病後児保育が利用できなかった回数	42
(10)	病児・病後児保育が利用できなかった理由	43
(11)	子育てに関する悩みの相談先	44
(12)	行政から発信される妊娠・出産・子育てに関する情報の認知状況	45
(13)	妊娠・出産・子育てに関する情報源	46
5.	不妊治療について	47
(1)	不妊治療の受診経験	47

(2) 不妊治療を始めた年齢.....	47
(3) 不妊治療中において困難を感じたこと	48
(4) 不妊治療受診の検討の有無	49
(5) 不妊治療を受診しなかった理由	49
6. 今後充実してほしい子育て支援策について	50
第4章 経年変化	51
(1) 理想の結婚年齢.....	51
(2) 結婚に対する考え方.....	52
(3) 実際の結婚年齢に対する意識.....	53
(4) 理想の子どもの人数.....	54
(5) 現実に持てると思う子どもの人数.....	55
(6) 理想の子どもの人数と現実に持てると思う子どもの人数の差.....	56
(7) 現実に持てると思う子どもの人数が理想の子どもの人数より少ない理由.....	57
(8) 子育ての経済的負担の大きさ.....	58
(9) 子育てにおける経済的負担の内容.....	59
参考資料	60
1. 調査票.....	60
2. 属性クロス集計結果.....	別紙

第1章 調査の概要

1. 調査対象

- 鳥取県に居住地がある者（①県政参画電子アンケート会員、②子育て王国とっとりアプリ会員、③えんトリー（とっとり出会いサポートセンター）会員、④鳥取県公式LINE・Xに登録している者、⑤県内企業従事者 他）

2. 調査期間

- 令和7年5月13日（火）～6月3日（火）

3. 有効回答数

- 887件

4. 報告書の見方

- 比率は全て百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- 複数回答を依頼した設問では、比率の合計が100%を超える。
- 本設問は必須回答としたと注記がない設問は任意回答とした。
- 第3章 調査結果では、無回答/非該当の回答者は集計対象から除外し、設問ごとに異なる有効回答数(n)を基準として比率を算出した。
- 第4章 経年変化では、無回答/非該当の回答者も集計対象に含めて集計した。
- 統計表などにおいて使用する記号の意味は以下のとおりである。
件数(n)：比率を算出する際の分母であり、100%が何人の有効回答者に相当するかを示す。

第2章 回答者の属性

[性別]

性別	回答数	割合(%)
男	242	27.3%
女	642	72.4%
その他	3	0.3%
合計	887	

[年齢]

年齢	回答数	割合(%)
20歳未満	1	0.1%
20～24歳	16	1.8%
25～29歳	79	8.9%
30～34歳	194	21.9%
35～39歳	188	21.2%
40～44歳	182	20.5%
45～49歳	79	8.9%
50～59歳	101	11.4%
60歳以上	47	5.3%
合計	887	

[お住いの市町村]

お住いの市町村	回答数	割合(%)
鳥取市	293	33.0%
米子市	370	41.7%
倉吉市	43	4.8%
境港市	36	4.1%
岩美町	11	1.2%
若桜町	1	0.1%
智頭町	6	0.7%
八頭町	19	2.1%
三朝町	6	0.7%
湯梨浜町	18	2.0%
琴浦町	17	1.9%
北栄町	21	2.4%
日吉津村	3	0.3%
大山町	12	1.4%
南部町	12	1.4%
伯耆町	13	1.5%
日南町	2	0.2%
日野町	3	0.3%
江府町	1	0.1%
合計	887	

[職業]

職業	回答数	割合(%)
会社員	404	45.5%
会社役員	8	0.9%
公務員	201	22.7%
自営業	34	3.8%
パート・アルバイト	124	14.0%
専業主夫・主婦	89	10.0%
無職	25	2.8%
学生	2	0.2%
合計	887	

[年収]

年収	回答数	割合(%)
100万円未満	100	11.3%
100万円台	99	11.2%
200万円台	135	15.2%
300万円台	160	18.0%
400万円台	159	17.9%
500万円台	77	8.7%
600万円以上	87	9.8%
なし	70	7.9%
合計	887	

[結婚の状況]

結婚の状況	回答数	割合(%)
結婚している(事実婚含む)	748	84.3%
独身(離別)	47	5.3%
独身(死別)	6	0.7%
独身(結婚の予定あり)	15	1.7%
独身(結婚したことなく予定なし)	71	8.0%
合計	887	

※ 回答者属性に関する設問は必須回答とした。

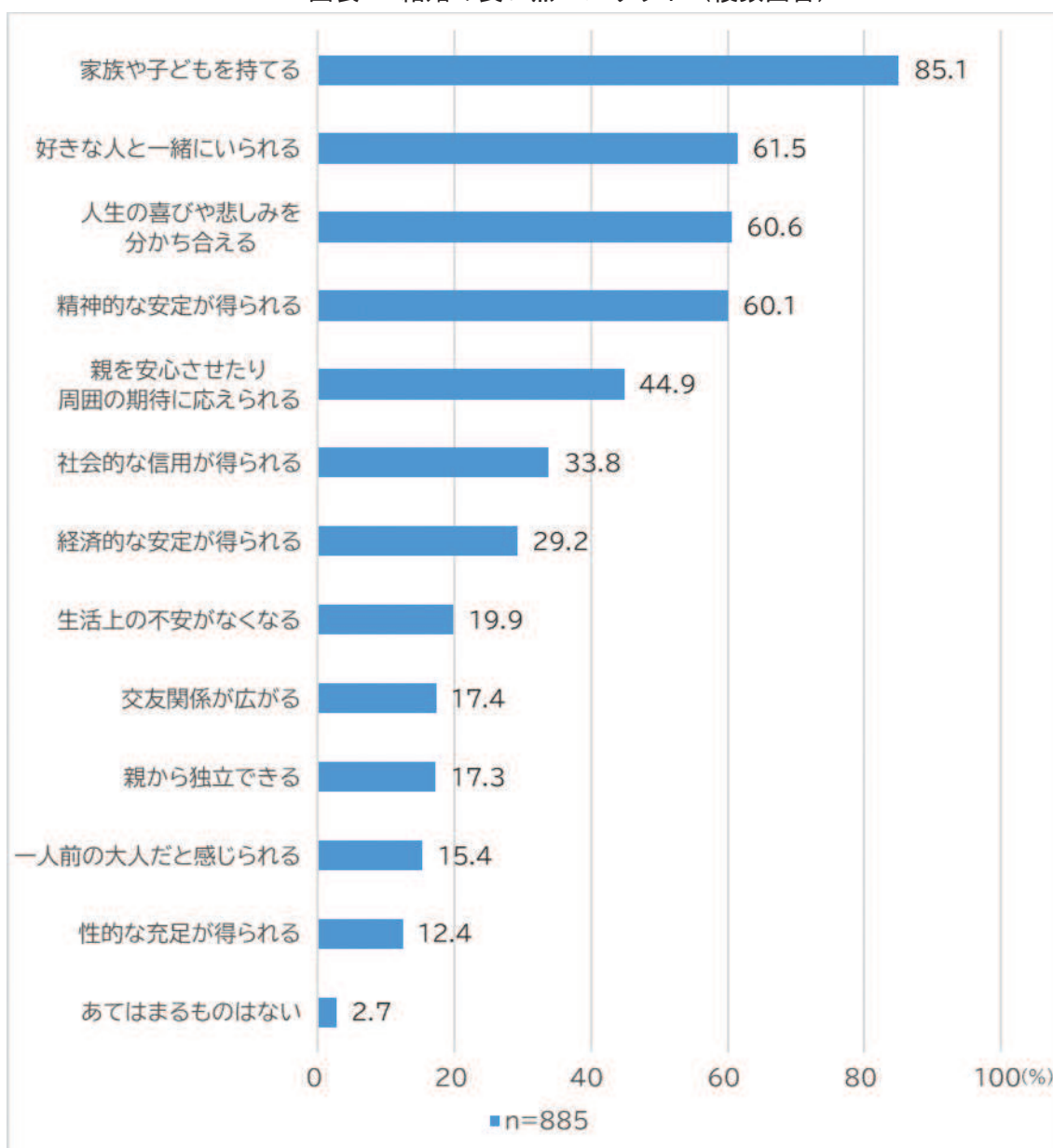
第3章 調査結果

1. 結婚について

(1) 結婚の良い点・メリットと良くない点・デメリット

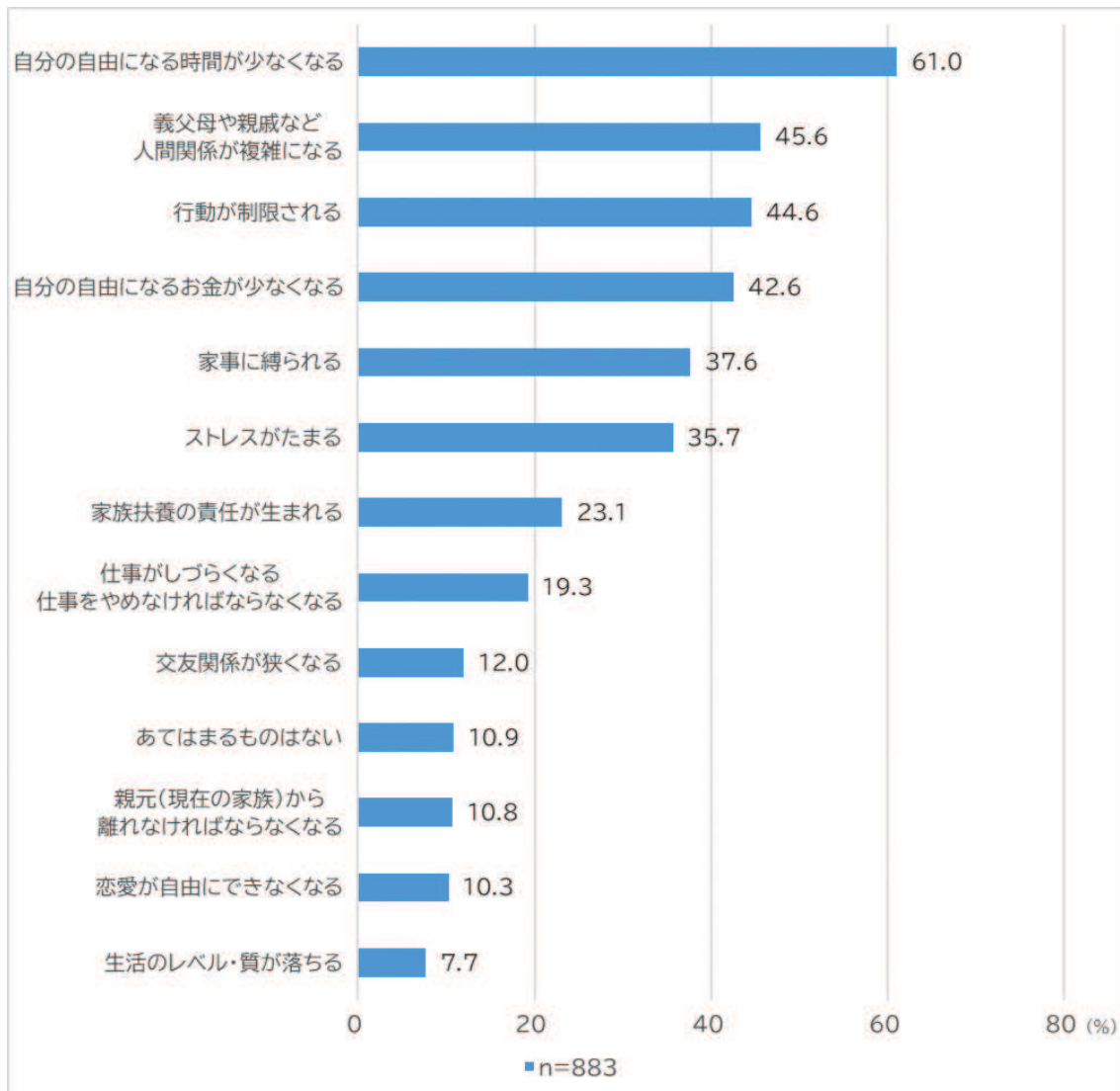
- 結婚の良い点・メリットは「家族や子どもを持てる」が85.1%で最も多く、次いで「好きな人と一緒にいられる」が61.5%、「人生の喜びや悲しみを分かち合える」が60.6%であった。

図表1 結婚の良い点・メリット（複数回答）



- 結婚の良くない点・デメリットは「自分の自由になる時間が少なくなる」が61.0%で最も多く、次いで「義父母や親戚など人間関係が複雑になる」が45.6%、「行動が制限される」が44.6%であった。

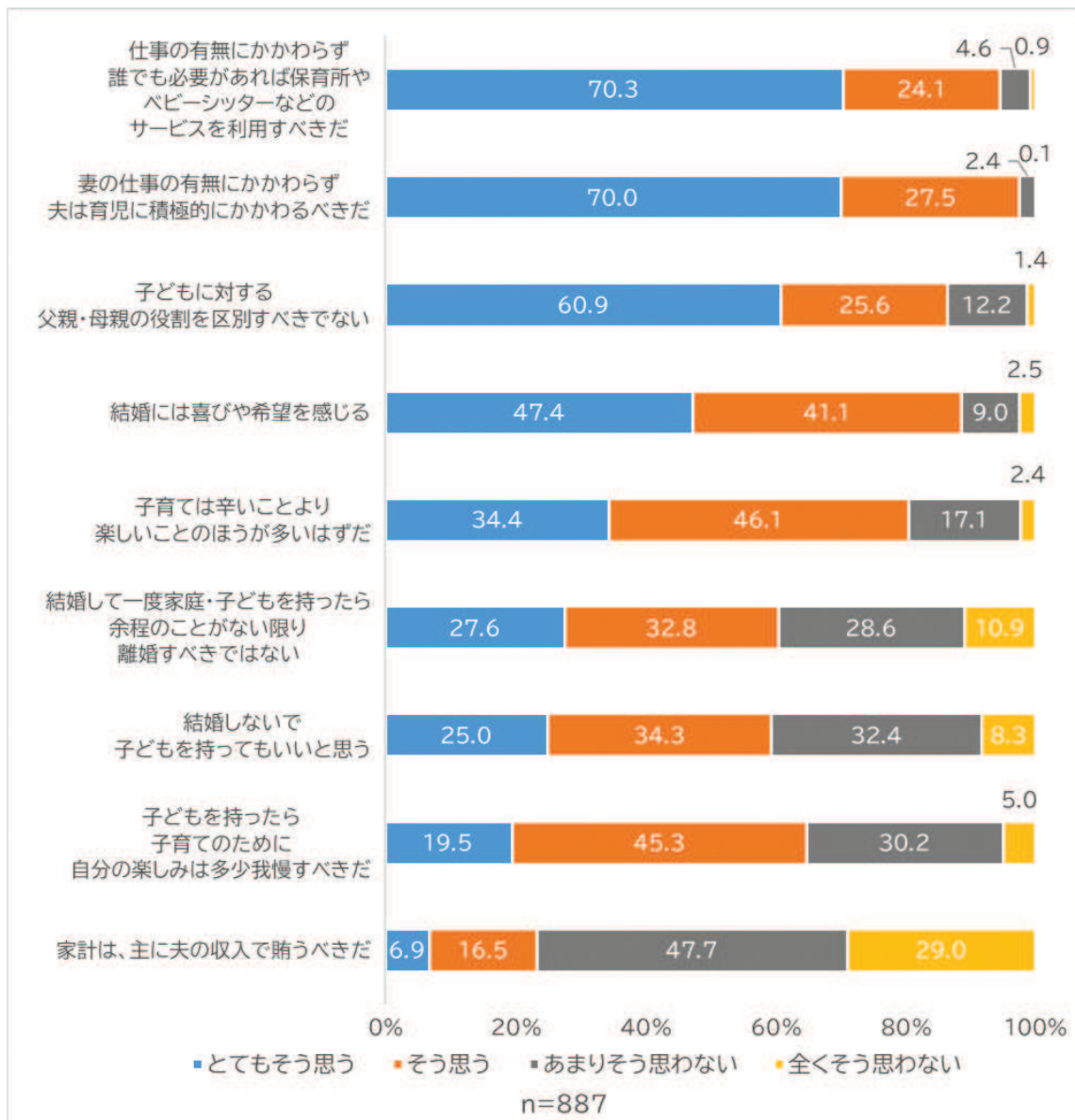
図表2 結婚の良くない点・デメリット（複数回答）



(2) 結婚についての意見・考え方

- 「とてもそう思う」と答えた人は「仕事の有無にかかわらず、誰でも必要があれば保育所やベビーシッターなどのサービスを利用すべきだ」が70.3%で最も多く、次いで「妻の仕事の有無にかかわらず、夫は育児に積極的にかかわるべきだ」が70.0%、「子どもに対する父親・母親の役割を区別すべきでない」が60.9%であった。

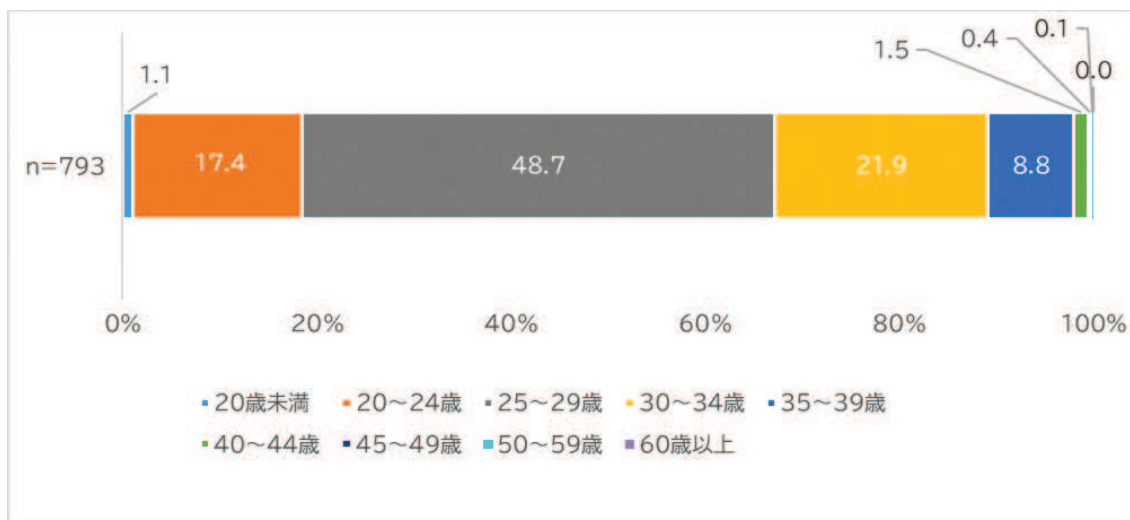
図表3 結婚についての意見・考え方について



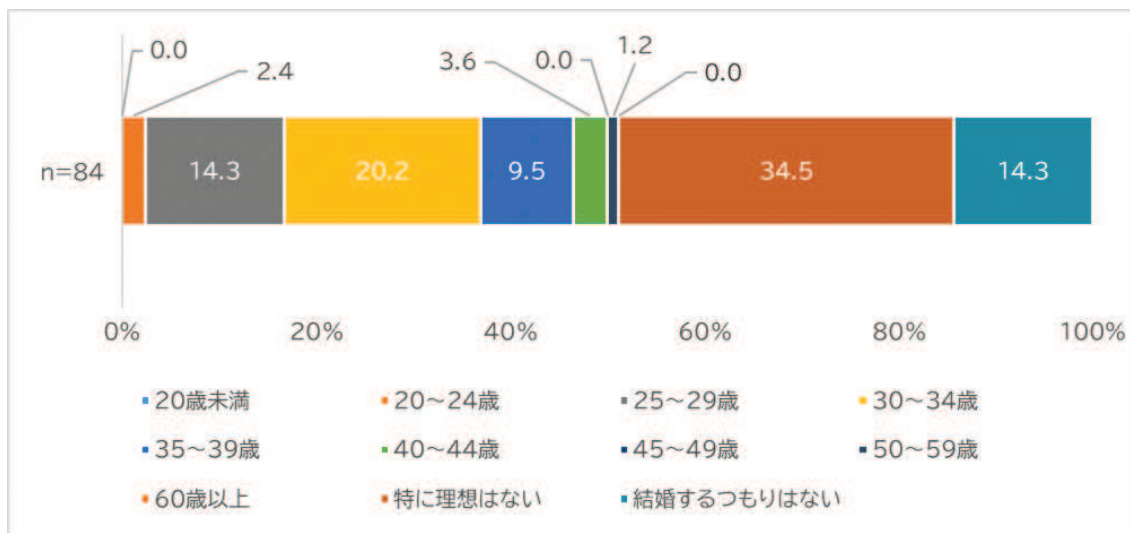
(3) 実際の結婚年齢・理想の結婚年齢

- 実際の結婚年齢は「25～29歳」が48.7%で最も多く、次いで「30～34歳」が21.9%、「20～24歳」が17.4%であった。
- 理想の結婚年齢は「特に理想はない」が34.5%で最も多く、次いで「30～34歳」が20.2%、「25～29歳」・「結婚するつもりはない」が14.3%であった。

図表4 実際の結婚年齢



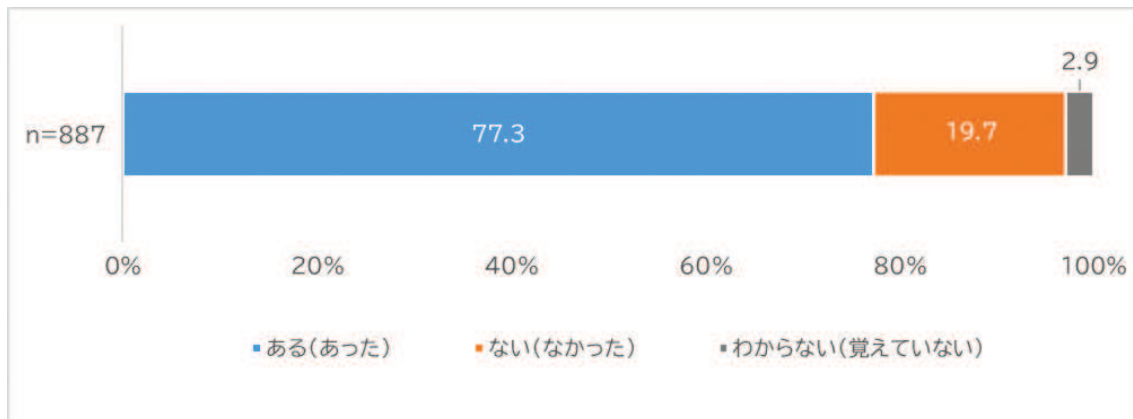
図表5 理想の結婚年齢



(4) 赤ちゃんや子どもとふれあう機会の有無

- 「ある(あった)」が77.3%で最も多く、次いで「ない(なかった)」が19.7%、「わからない(覚えていない)」が2.9%であった。

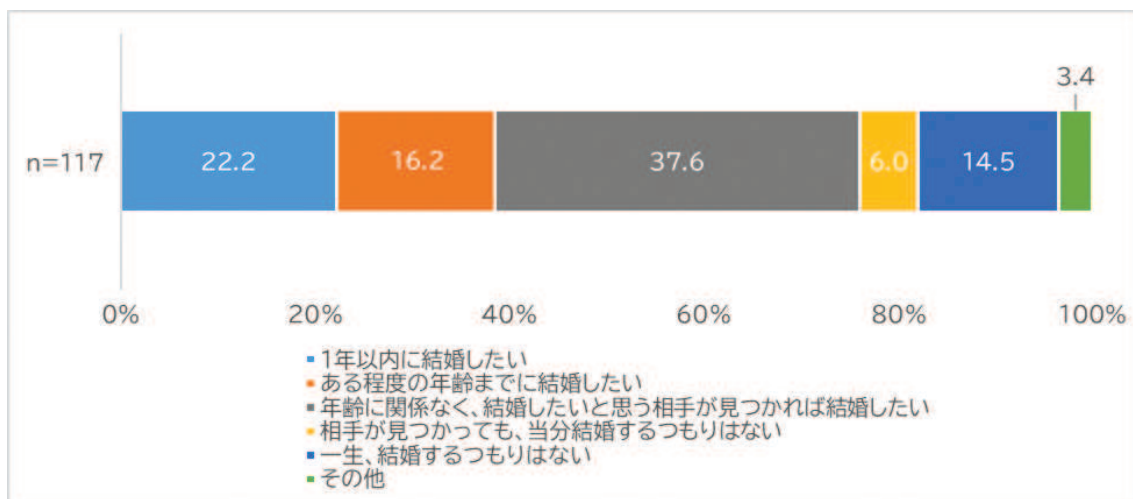
図表6 赤ちゃんや子どもとふれあう機会の有無



(5) 結婚に対する考え方

- 「年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい」が37.6%で最も多く、次いで「1年以内に結婚したい」が22.2%、「ある程度の年齢までに結婚したい」が16.2%であった。

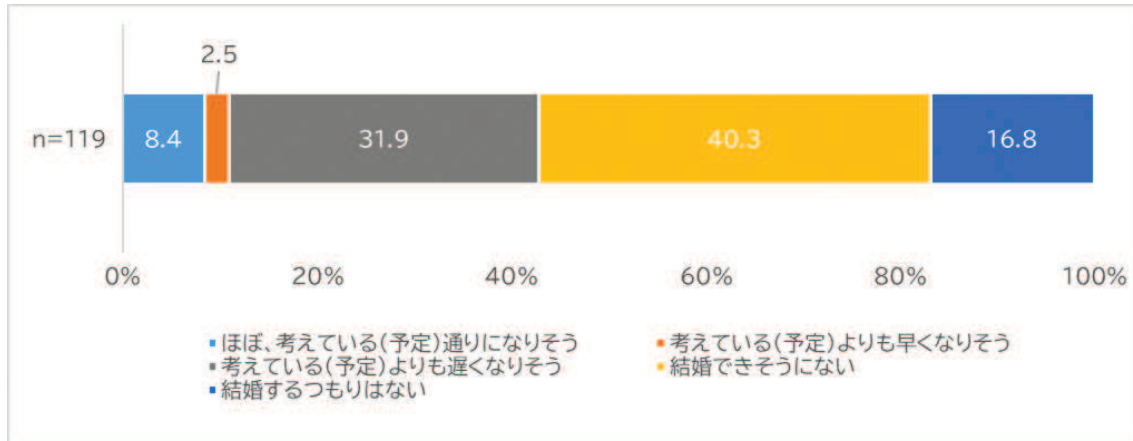
図表7 結婚に対する考え方



(6) 実際の結婚年齢に対する意識

- 「結婚できそうにない」が40.3%で最も多く、次いで「考えている(予定)よりも遅くなりそう」が31.9%、「結婚するつもりはない」が16.8%であった。

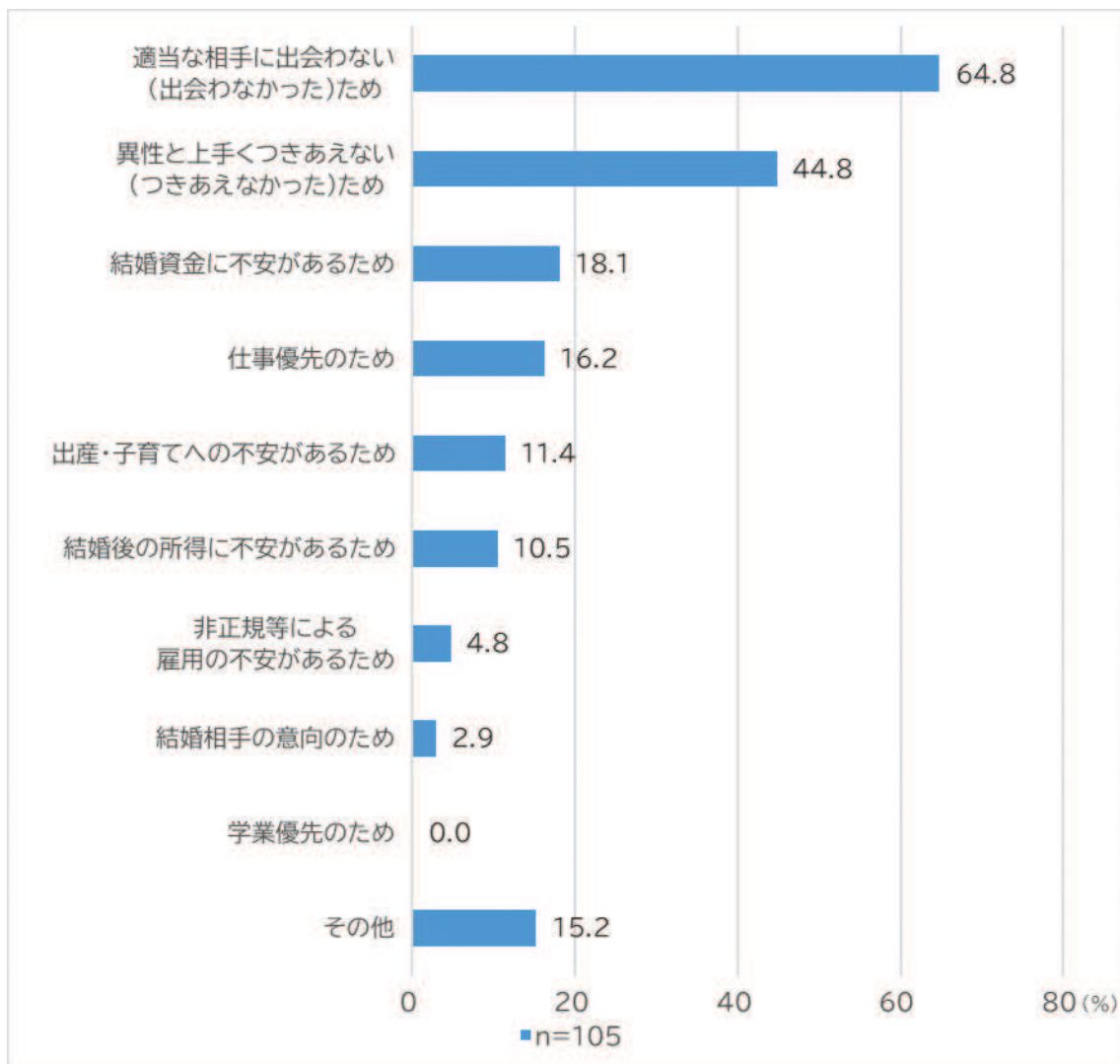
図表 8 実際の結婚年齢に対する意識



(7) 結婚が予定より遅れそう・できそうにない・するつもりはないと考える理由

- 「適当な相手に出会わない（出会わなかった）ため」が 64.8%で最も多く、次いで「異性と上手くつきあえない（つきあえなかった）ため」が 44.8%、「結婚資金に不安があるため」が 18.1%であった。

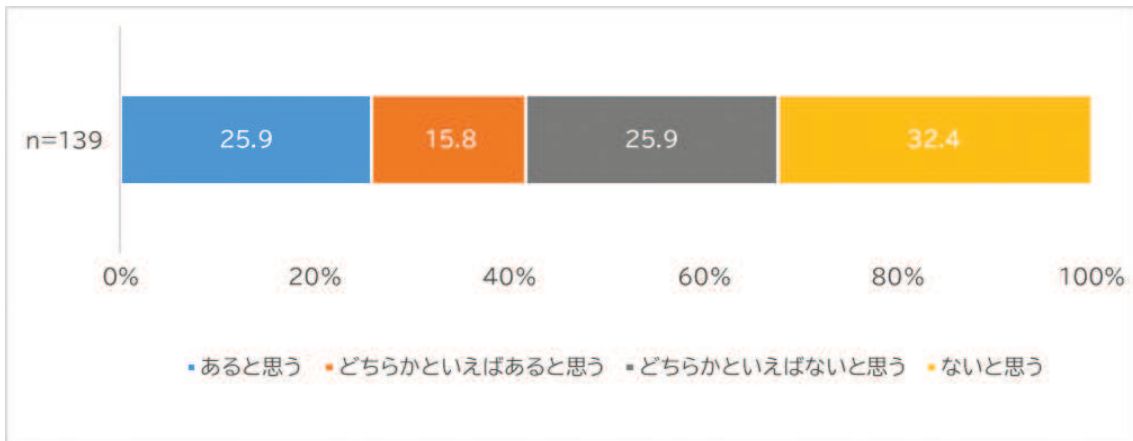
図表 9 結婚が予定より遅れそう・できそうにない・するつもりはないと考える理由（複数回答）



(8) 異性との出会いの機会の有無

- 「ないと思う」が32.4%で最も多く、次いで「どちらかといえばないと思う」・「あると思う」が25.9%であった。

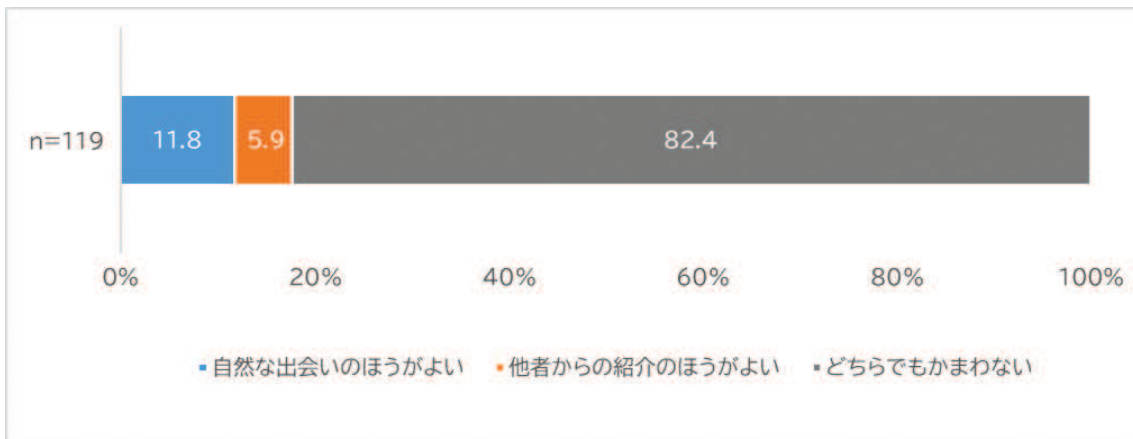
図表10 異性との出会いの機会の有無



(9) 他者から紹介された結婚に対する考え方

- 「どちらでもかまわない」が82.4%で最も多く、次いで「自然な出会いのほうがよい」が11.8%、「他者からの紹介のほうがよい」が5.9%であった。

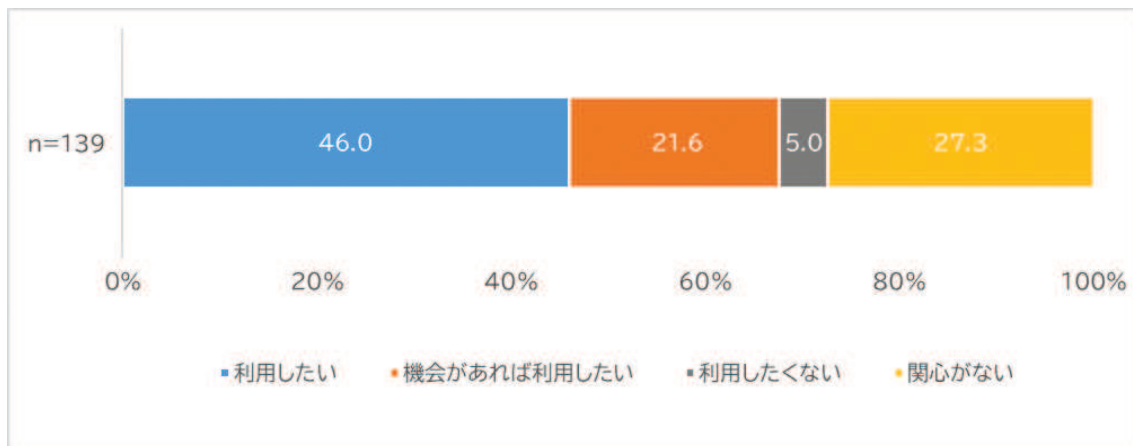
図表11 他者から紹介された結婚に対する考え方



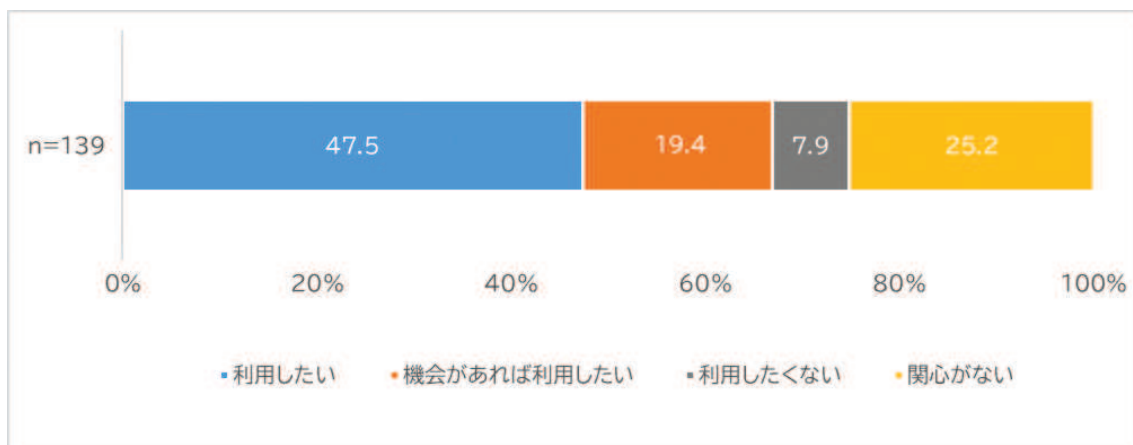
(10) 見合い、民間の結婚支援、公的な結婚支援の利用

- 見合いの利用について「利用したい」が46.0%で最も多く、次いで「関心がない」が27.3%、「機会があれば利用したい」が21.6%であった。
- 民間の結婚支援の利用について「利用したい」が47.5%で最も多く、次いで「関心がない」が25.2%、「機会があれば利用したい」が19.4%であった。
- 公的な結婚支援の利用について「利用したい」が54.7%で最も多く、次いで「機会があれば利用したい」・「関心がない」が20.9%であった。

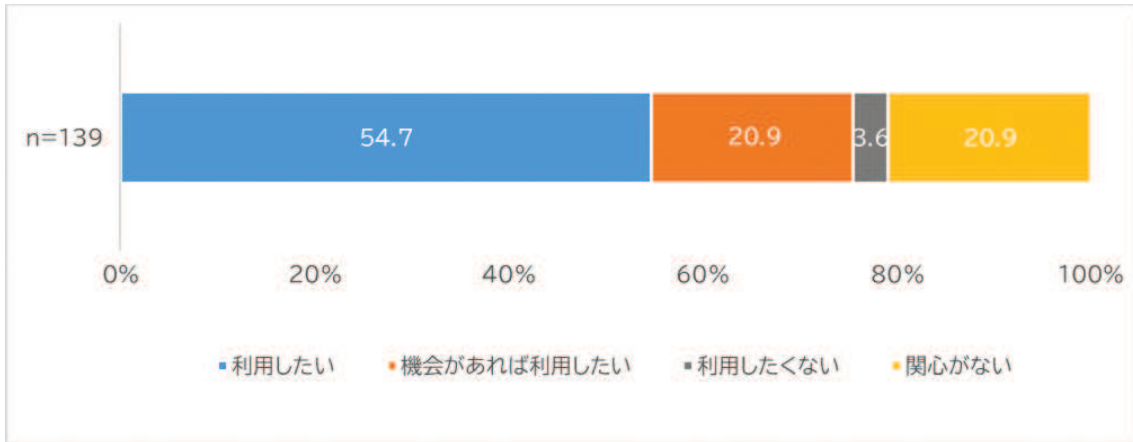
図表 1 2 見合いの利用



図表 1 3 民間の結婚支援の利用



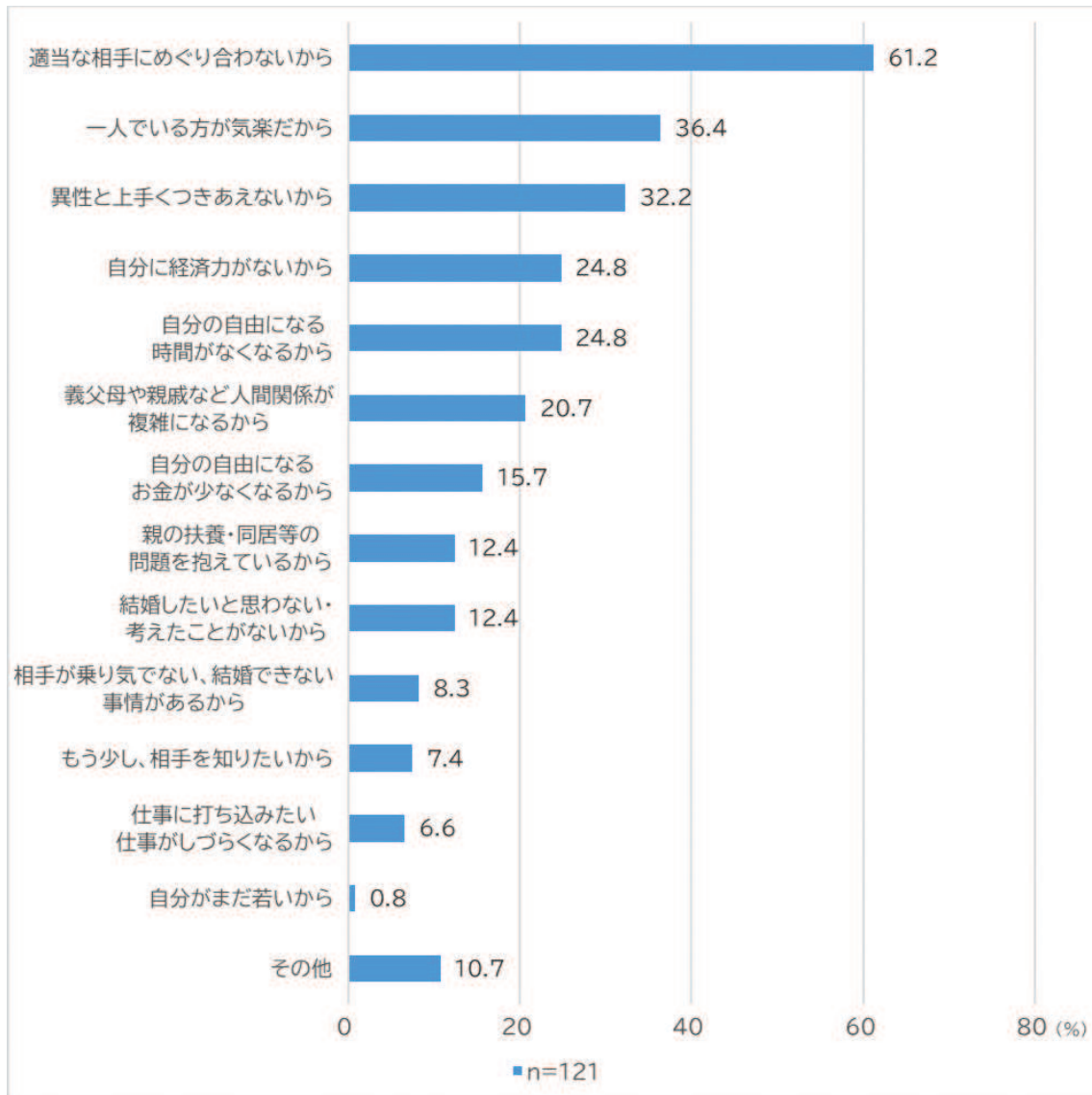
図表 1 4 公的な結婚支援の利用



(11) 結婚していない理由

- 「適当な相手にめぐり合わないから」が 61.2%で最も多く、次いで「一人である方が気楽だから」が 36.4%、「異性と上手くつきあえないから」が 32.2%であった。

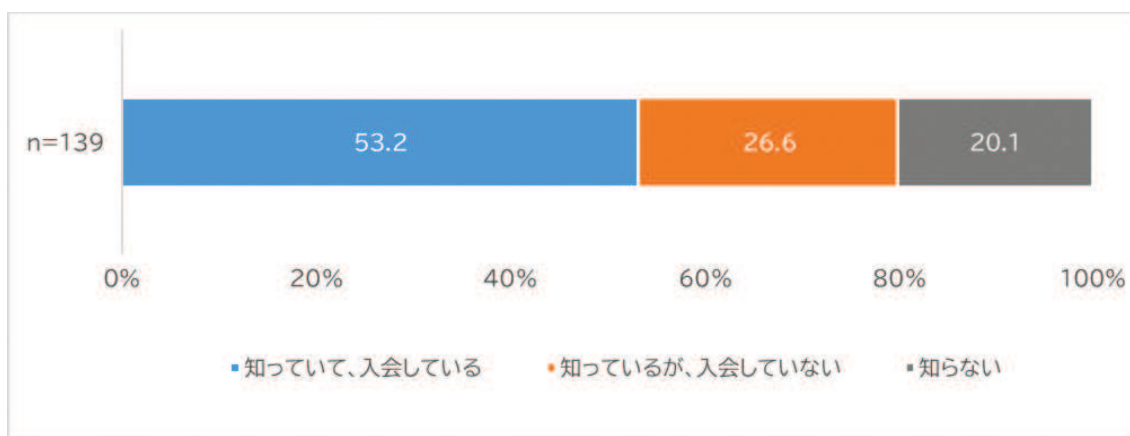
図表 15 結婚していない理由（複数回答）



(12) とっとり出会いサポートセンター（えんトリー）の認知状況

- 「知っていて、入会している」が53.2%で最も多く、次いで「知っているが、入会していない」が26.6%、「知らない」が20.1%であった。

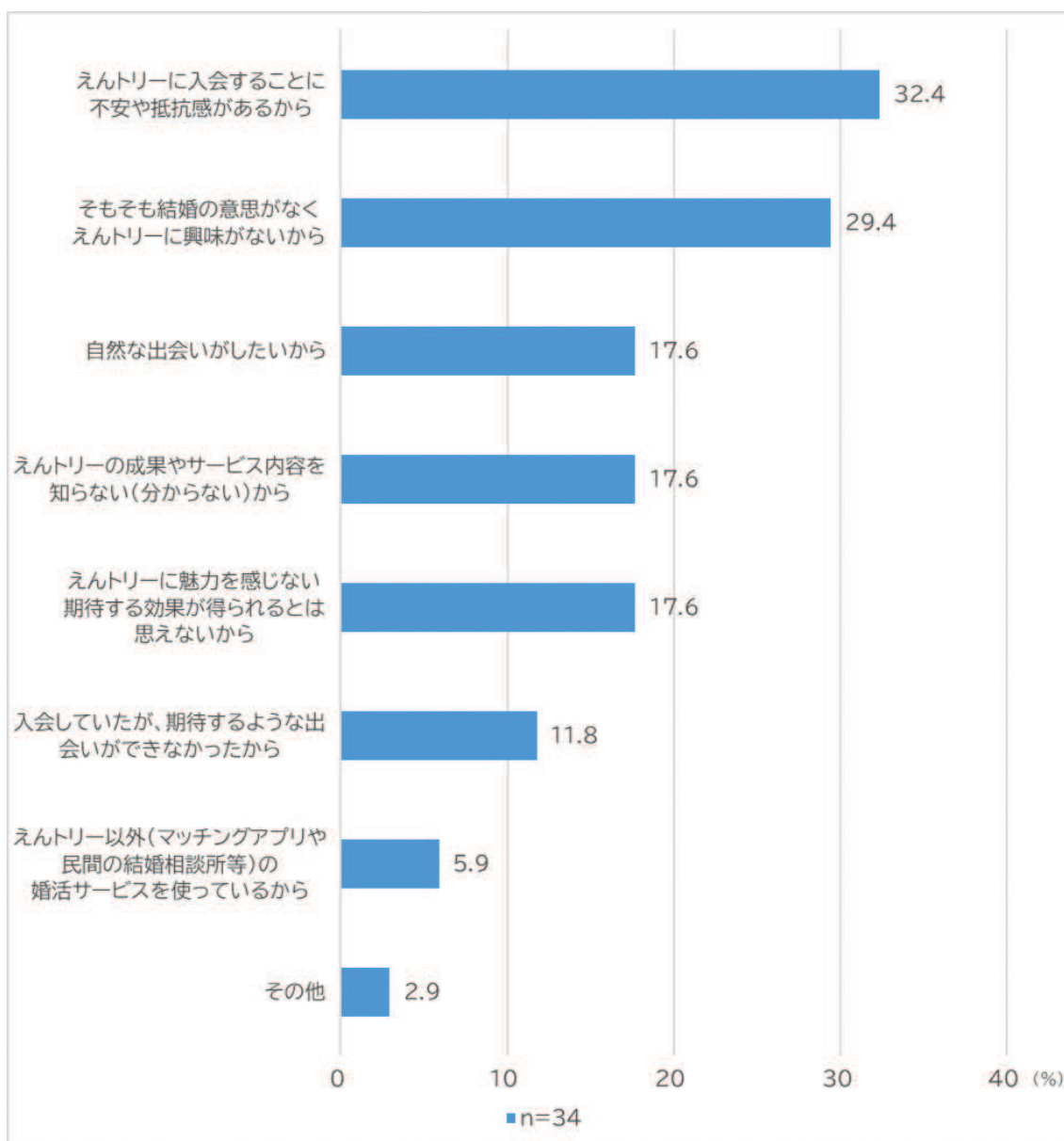
図表16 とっとり出会いサポートセンター（えんトリー）の認知状況



(13) とっとり出会いサポートセンター（えんトリー）に入会しない（できない）理由

- 「えんトリーに入会することに不安や抵抗感があるから」が32.4%で最も多く、次いで「そもそも結婚の意思がなく、えんトリーに興味がないから」が29.4%、「自然な出会いがしたいから」・「えんトリーの成果やサービス内容を知らない（分からない）から」・「えんトリーに魅力を感じない、期待する効果が得られるとは思えないから」が17.6%であった。

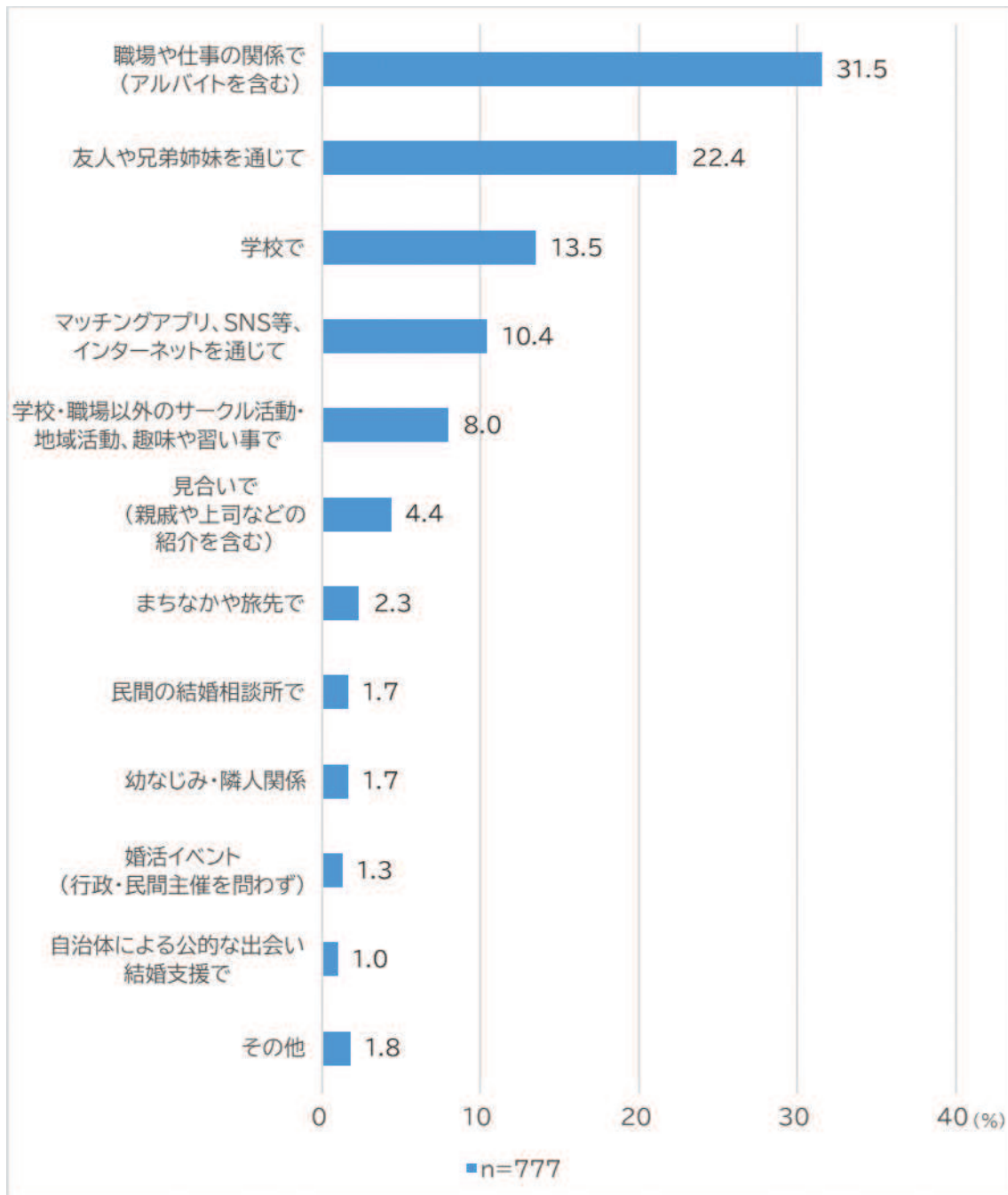
図表17 とっとり出会いサポートセンター（えんトリー）に入会しない（できない）理由（複数回答）



(14) 結婚、交際されている方との出会い方

- 「職場や仕事の関係で（アルバイトを含む）」が31.5%で最も多く、次いで「友人や兄弟姉妹を通じて」が22.4%、「学校で」が13.5%であった。

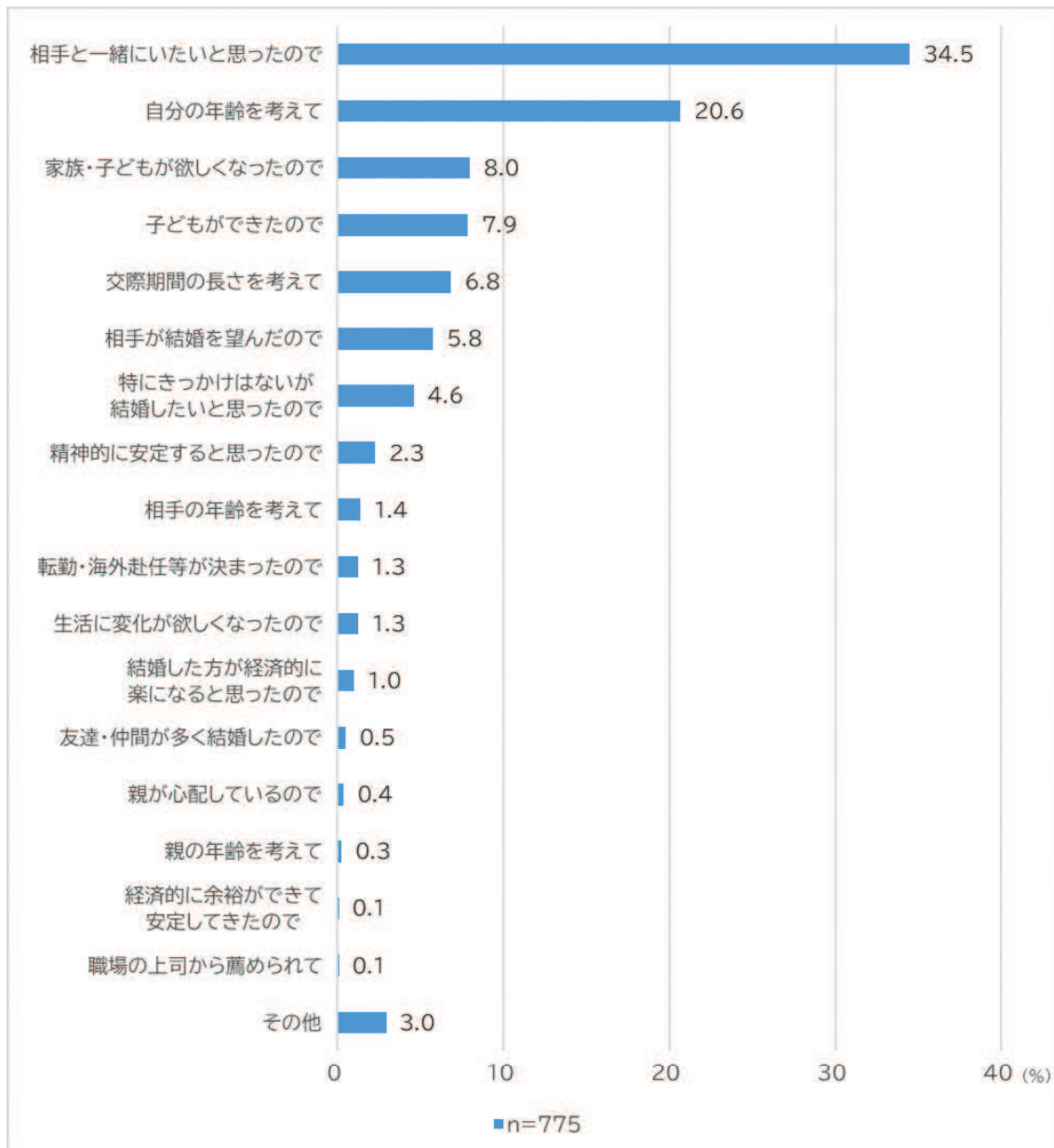
図表 18 結婚、交際されている方との出会い方



(15) 結婚の決め手となったきっかけ

- 「相手と一緒にいたいと思ったので」が34.5%で最も多く、次いで「自分の年齢を考えて」が20.6%、「家族・子どもがほしくなったので」が8.0%であった。

図表19 結婚の決め手となったきっかけ

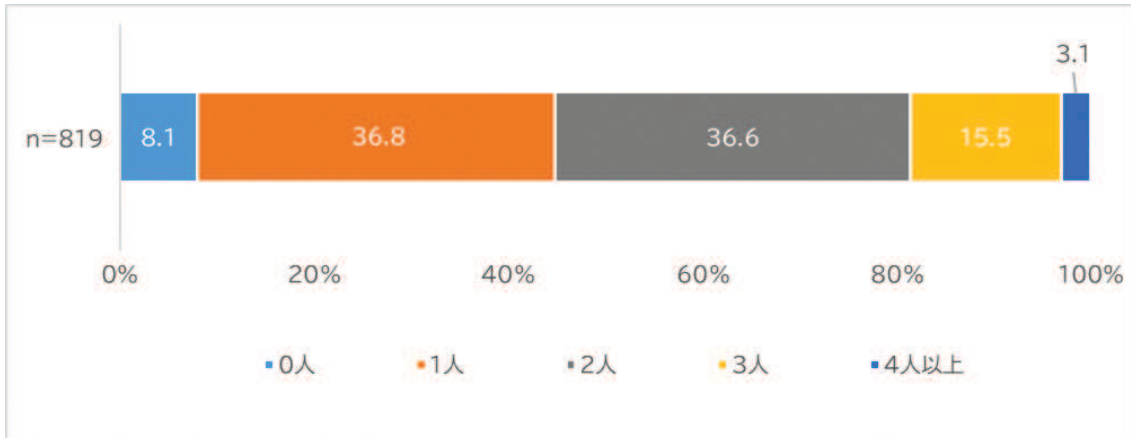


2. 子育てについて

(1) 現在の子どもの人数

- 「1人」が36.8%で最も多く、次いで「2人」が36.6%、「3人」が15.5%であった。

図表20 現在の子どもの人数

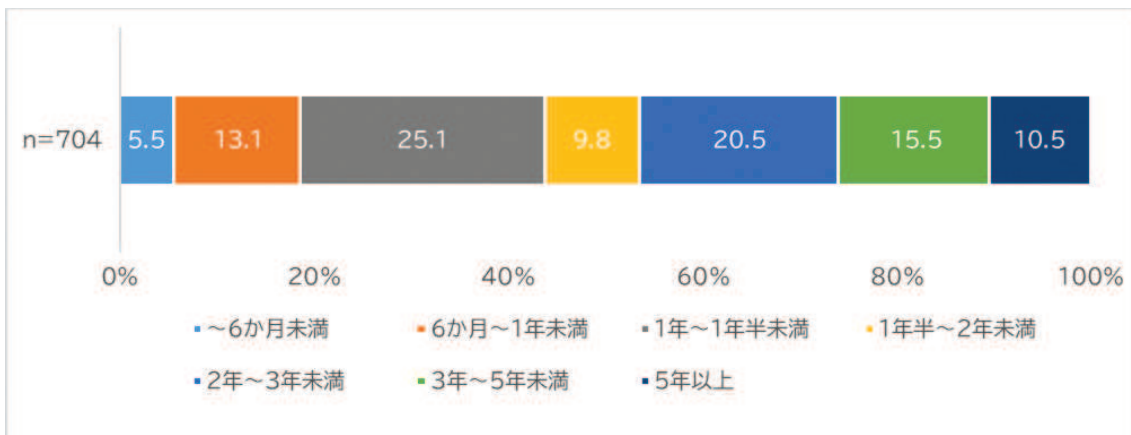


※ 本設問は必須回答とした。

(2) 結婚（婚姻届を提出）してから第1子の出生までにかかった期間

- 「1年～1年半未満」が25.1%で最も多く、次いで「2年～3年未満」が20.5%、「3年～5年未満」が15.5%であった。

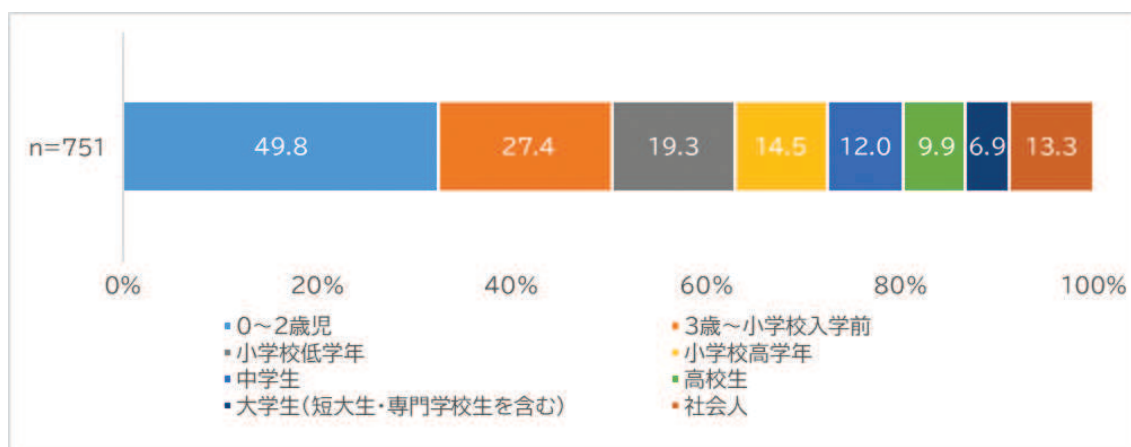
図表21 結婚（婚姻届を提出）してから第1子の出生までにかかった期間



(3) 子どもの学齢・学年

- 「0～2歳児」が49.8%で最も多く、次いで「3歳～小学校入学前」が27.4%、「小学校低学年」が19.3%であった。

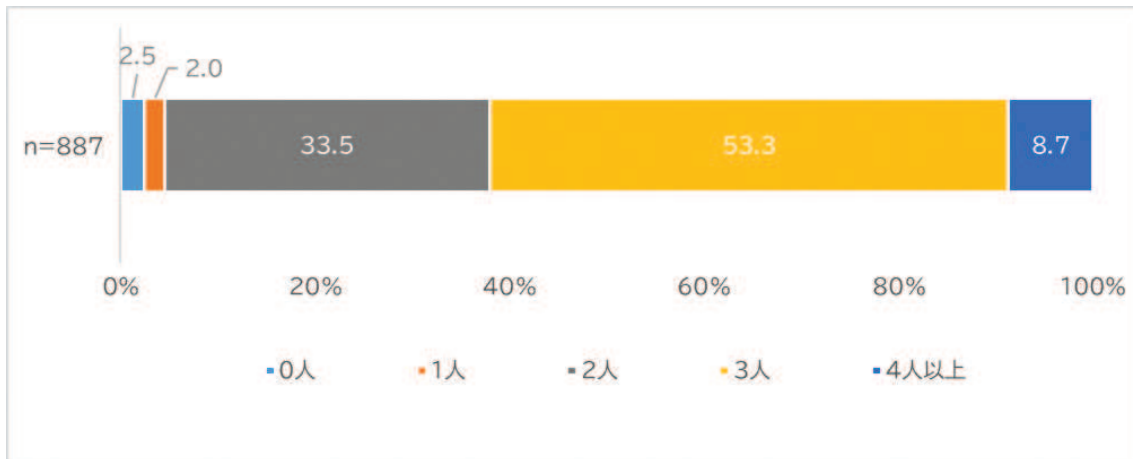
図表22 子どもの学齢・学年



(4) 理想の子どもの人数と現実に持てると思う子どもの人数

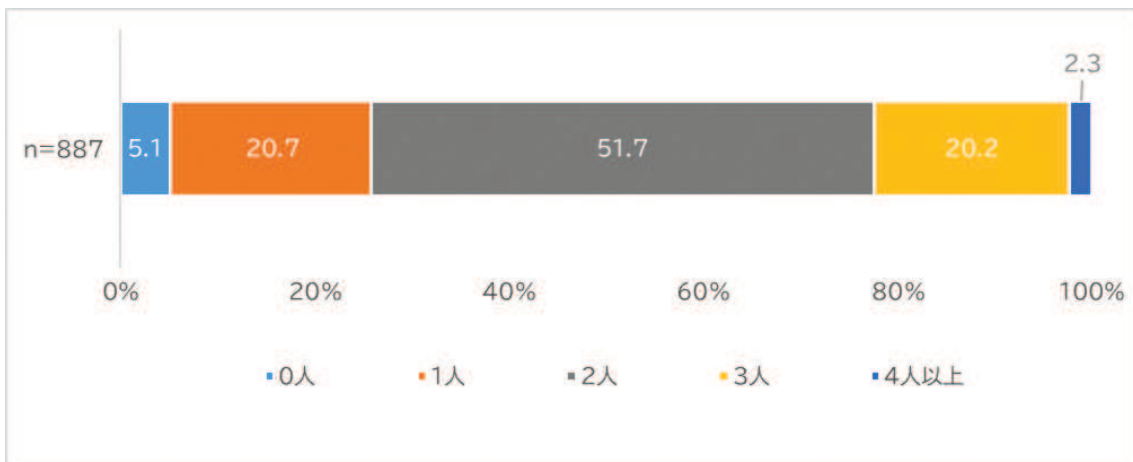
- 理想の子どもの人数は「3人」が53.3%で最も多く、次いで「2人」が33.5%、「4人以上」が8.7%であった。
- 現実に持てると思う子どもの人数は「2人」が51.7%で最も多く、次いで「1人」が20.7%、「3人」が20.2%であった。

図表 2 3 理想の子どもの人数



※ 本設問は必須回答とした。

図表 2 4 現実に持てると思う子どもの人数

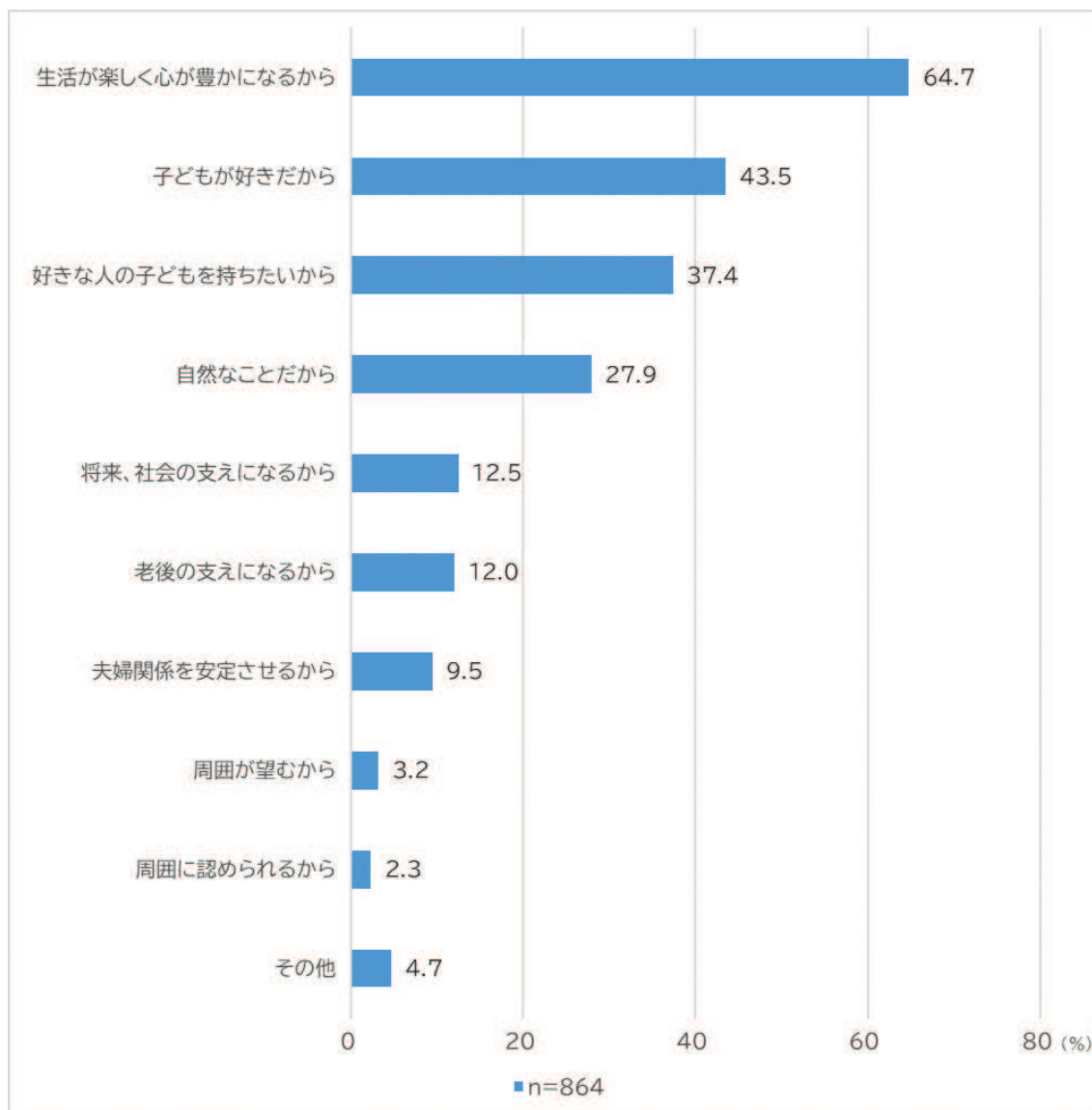


※ 本設問は必須回答とした。

(5) 子どもがほしいと思う理由

- 「生活が楽しく心が豊かになるから」が64.7%で最も多く、次いで「子どもが好きだから」が43.5%、「好きな人の子どもを持ちたいから」が37.4%であった。

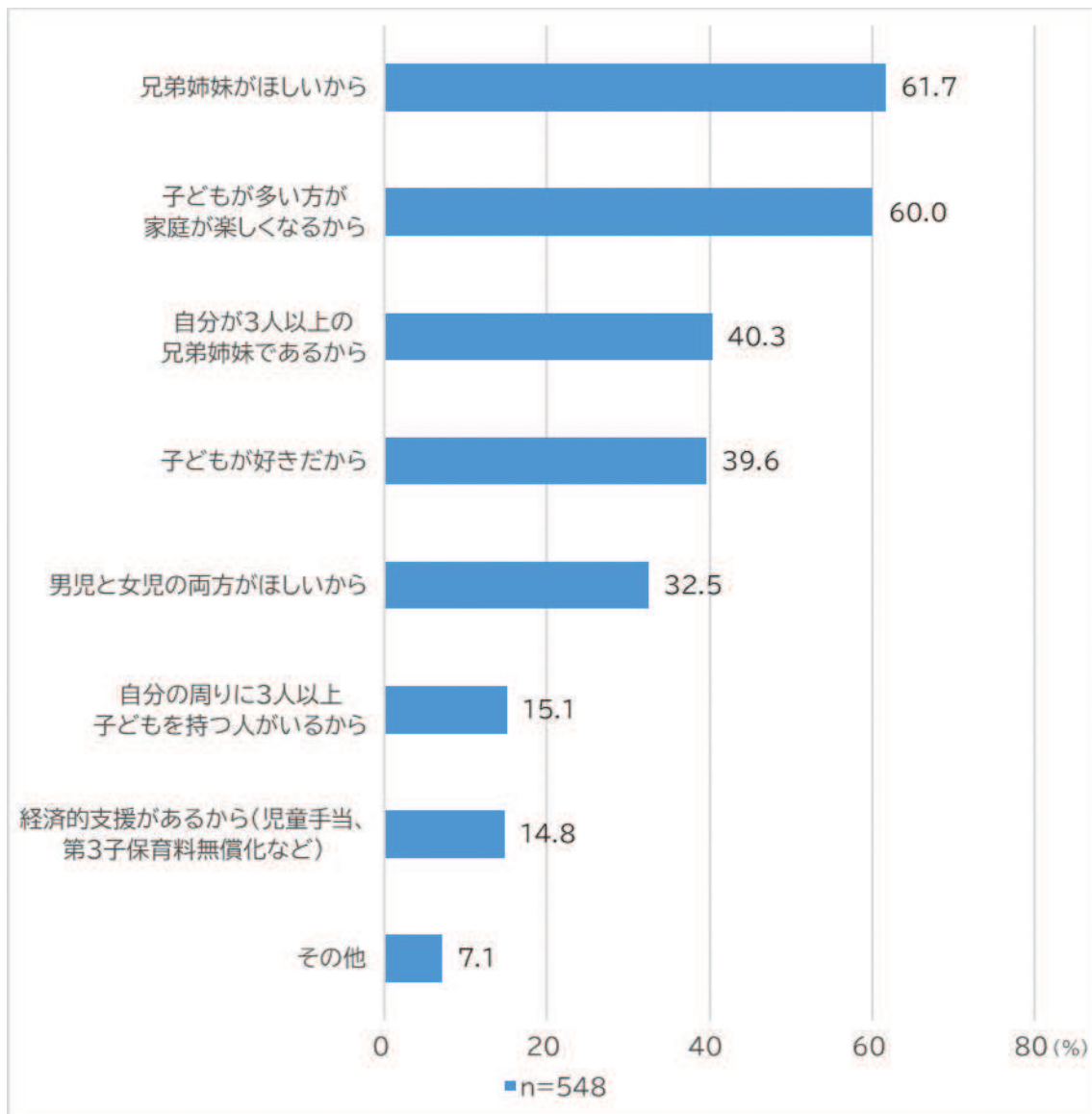
図表25 子どもがほしいと思う理由（複数回答）



(6) 3人以上の子どもがほしいと思う理由

- 「兄弟姉妹がほしいから」が61.7%で最も多く、次いで「子どもが多い方が家庭が楽しくなるから」が60.0%、「自分が3人以上の兄弟姉妹であるから」が40.3%であった。

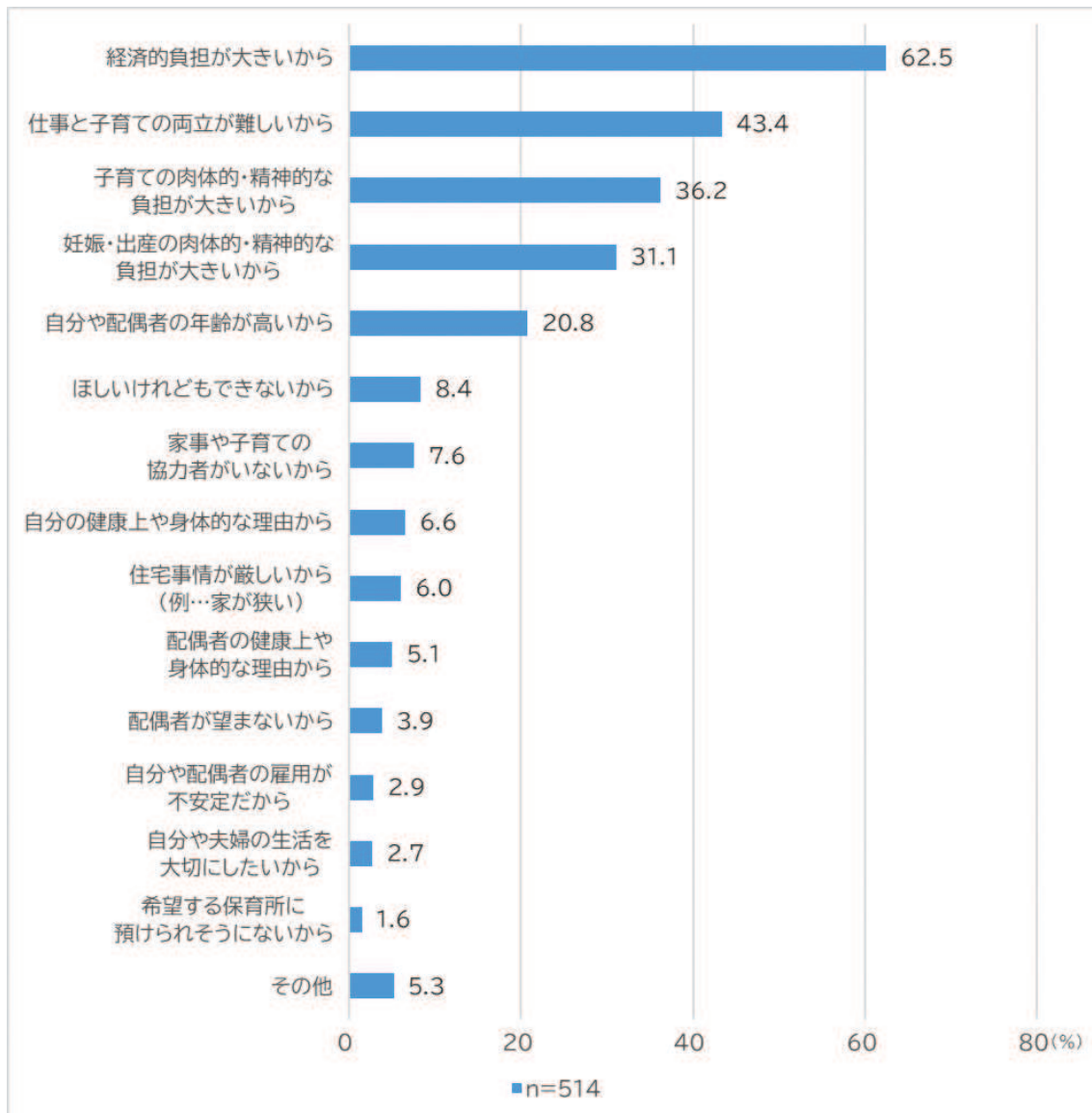
図表 2 6 3人以上の子どもがほしいと思う理由（複数回答）



(7) 現実に持てると思う子どもの人数が理想の子どもの人数より少ない理由

- 「経済的負担が大きいから」が62.5%で最も多く、次いで「仕事と子育ての両立が難しいから」が43.4%、「子育ての肉体的・精神的な負担が大きいから」が36.2%であった。

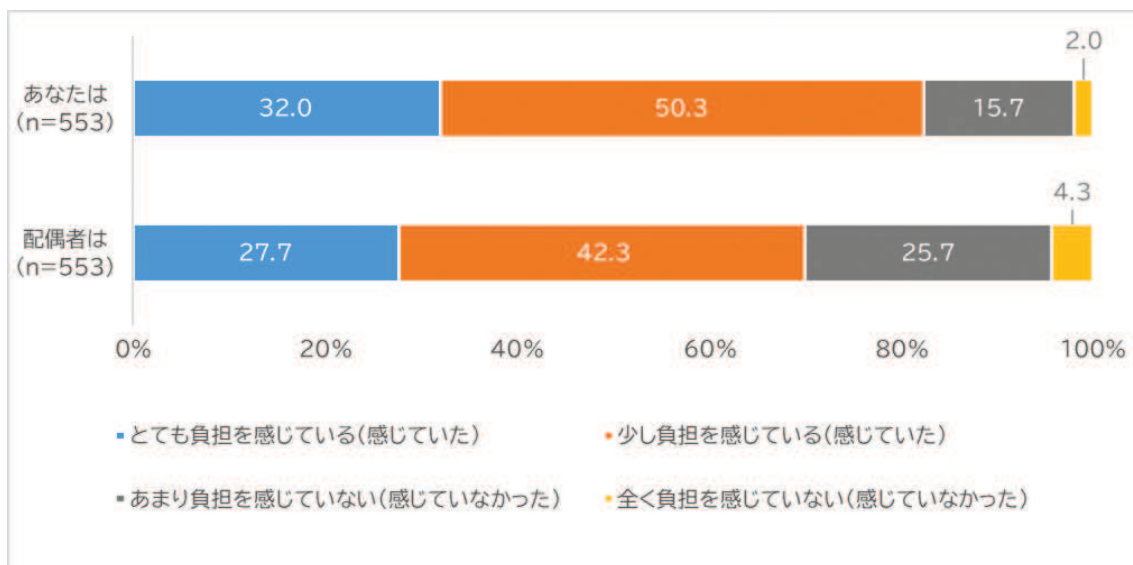
図表27 現実に持てると思う子どもの人数が理想の子どもの人数より少ない理由(複数回答)



(8) 子育てに感じる負担

- 回答者は「少し負担を感じている（感じていた）」が50.3%で最も多く、次いで「とても負担を感じている（感じていた）」が32.0%、「あまり負担を感じていない（感じていなかった）」が15.7%であった。
- 配偶者は「少し負担を感じている（感じていた）」が42.3%で最も多く、次いで「とても負担を感じている（感じていた）」が27.7%、「あまり負担を感じていない（感じていなかった）」が25.7%であった。

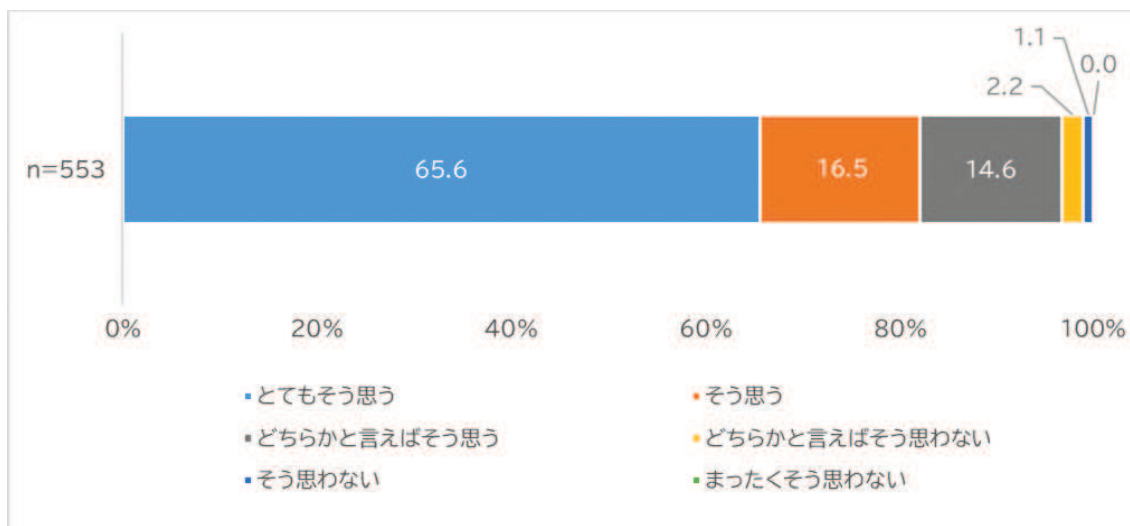
図表28 子育てに感じる負担



(9) 子育ての経済的負担の大きさ

- 「とてもそう思う」が65.6%で最も多く、次いで「そう思う」が16.5%、「どちらかといえばそう思う」が14.6%であった。

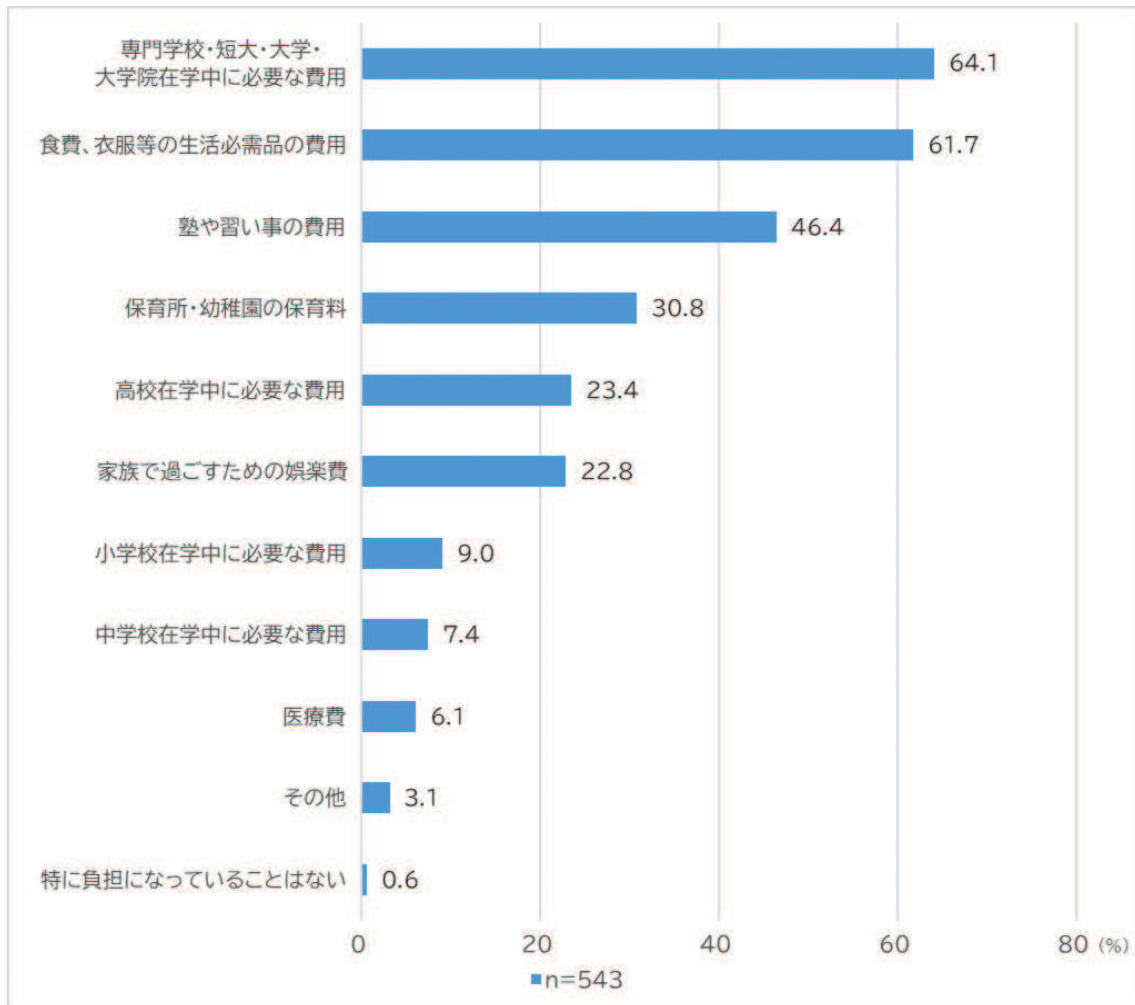
図表29 子育ての経済的負担の大きさ



(10) 子育てにおける経済的負担の内容

- 「専門学校・短大・大学・大学院在学中に必要な費用」が64.1%で最も多く、次いで「食費、衣服等の生活必需品の費用」が61.7%、「塾や習い事の費用」が46.4%であった。

図表30 子育てにおける経済的負担の内容（複数回答）

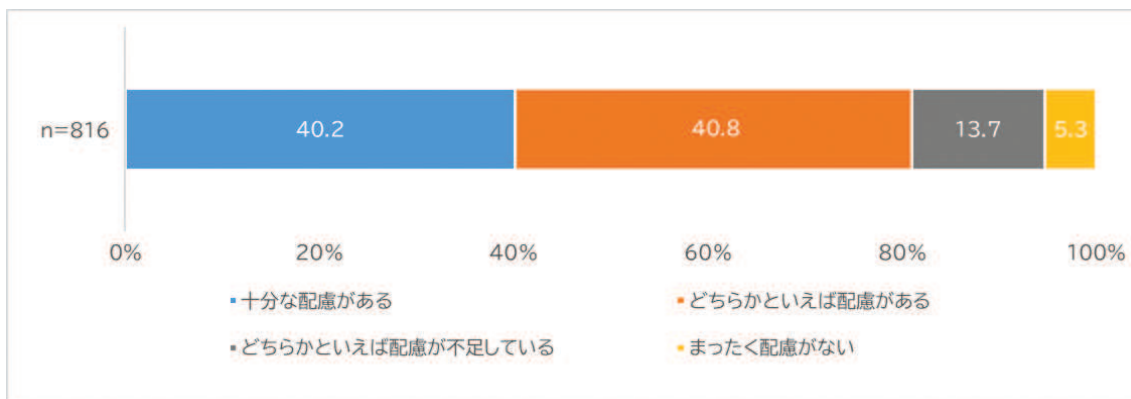


3. 家庭と仕事の両立について

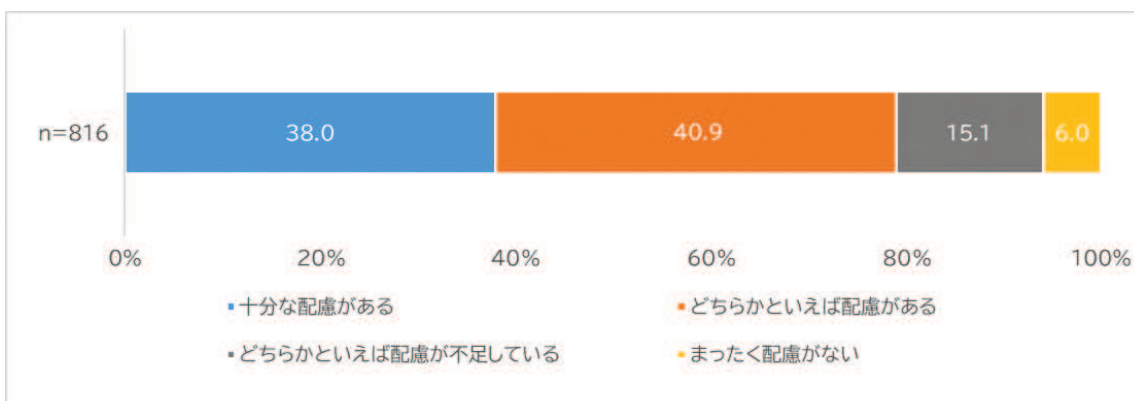
(1) 結婚、妊娠・出産、子育てと仕事の両立に対する職場の配慮

- 結婚と仕事の両立に対する職場の配慮については「どちらかといえば配慮がある」が40.8%で最も多く、次いで「十分な配慮がある」が40.2%、「どちらかといえば配慮が不足している」が13.7%であった。
- 妊娠・出産と仕事の両立に対する職場の配慮については「どちらかといえば配慮がある」が40.9%で最も多く、次いで「十分な配慮がある」が38.0%、「どちらかといえば配慮が不足している」が15.1%であった。
- 子育てと仕事の両立に対する職場の配慮については「どちらかといえば配慮がある」が38.8%で最も多く、次いで「十分な配慮がある」が35.8%、「どちらかといえば配慮が不足している」が19.1%であった。

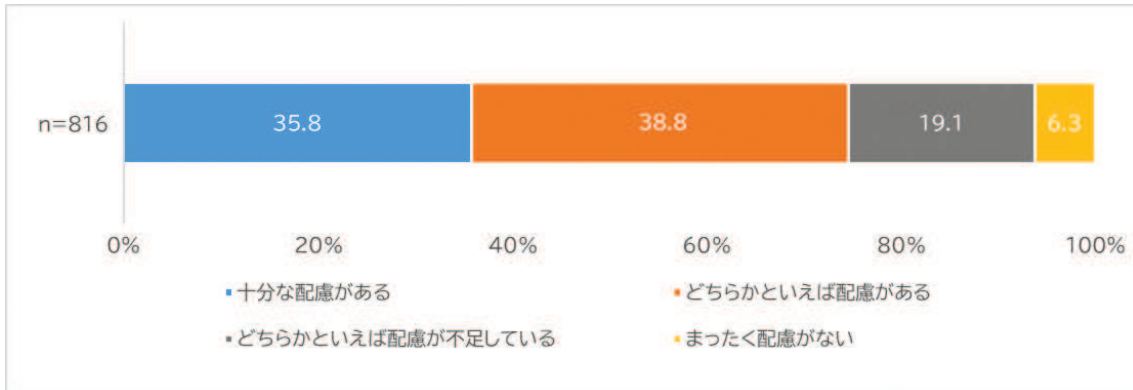
図表 3 1 結婚と仕事の両立に対する職場の配慮



図表 3 2 妊娠・出産と仕事の両立に対する職場の配慮



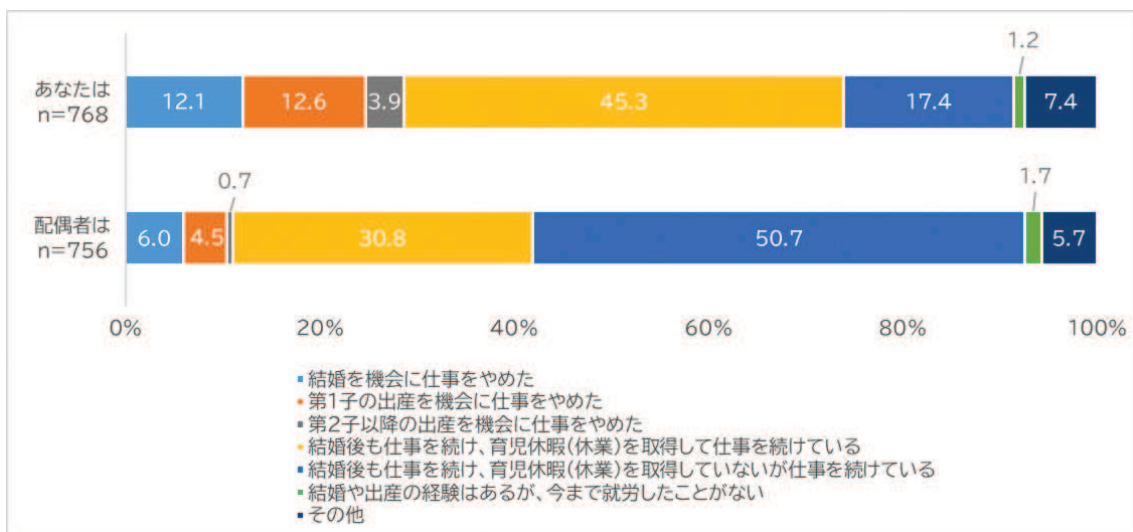
図表 3 3 子育てと仕事の両立に対する職場の配慮



(2) 結婚や出産を機に仕事をやめた経験

- 回答者は「結婚後も仕事を続け、育児休暇（休業）を取得して仕事を続けている」が 45.3%で最も多く、次いで「結婚後も仕事を続け、育児休暇（休業）をしていないが仕事を続けている」が 17.4%、「第1子の出産を機会に仕事をやめた」が 12.6%であった。
- 配偶者は「結婚後も仕事を続け、育児休暇（休業）を取得していないが仕事を続けている」が 50.7%で最も多く、次いで「結婚後も仕事を続け、育児休暇（休業）を取得して仕事を続けている」が 30.8%、「結婚を機会に仕事をやめた」が 6.0%であった。

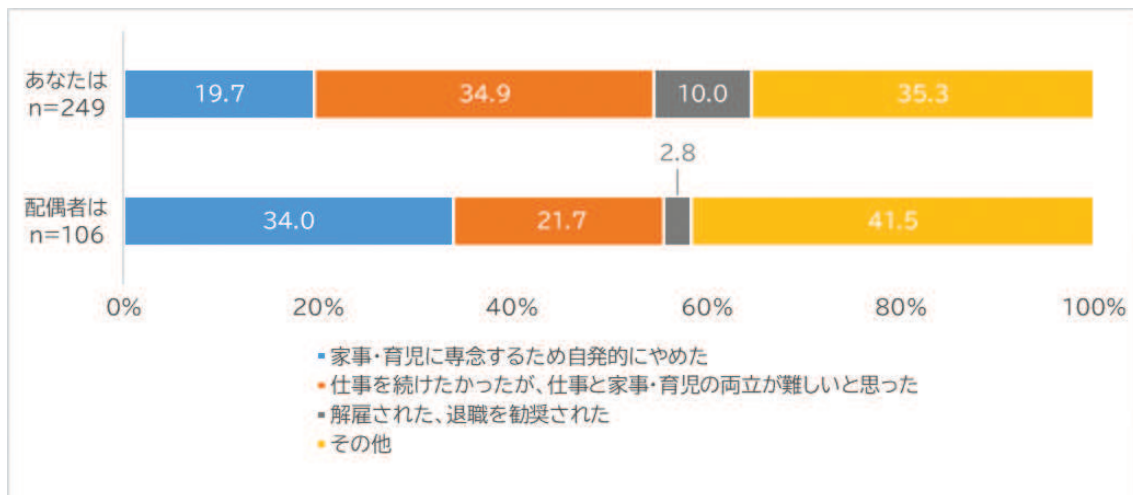
図表 3 4 結婚や出産を機に仕事をやめた経験



(3) 結婚や出産を機に仕事をやめた理由

- 回答者は「仕事を続けたかったが、仕事と家事・育児の両立が難しいと思った」が34.9%で最も多く、次いで「家事・育児に専念するため自発的にやめた」が19.7%、「解雇された、退職を勧奨された」が10.0%であった。
- 配偶者は「家事・育児に専念するため自発的にやめた」が34.0%で最も多く、次いで「仕事を続けたかったが、仕事と家事・育児の両立が難しいと思った」が21.7%、「解雇された、退職を勧奨された」が2.8%であった。

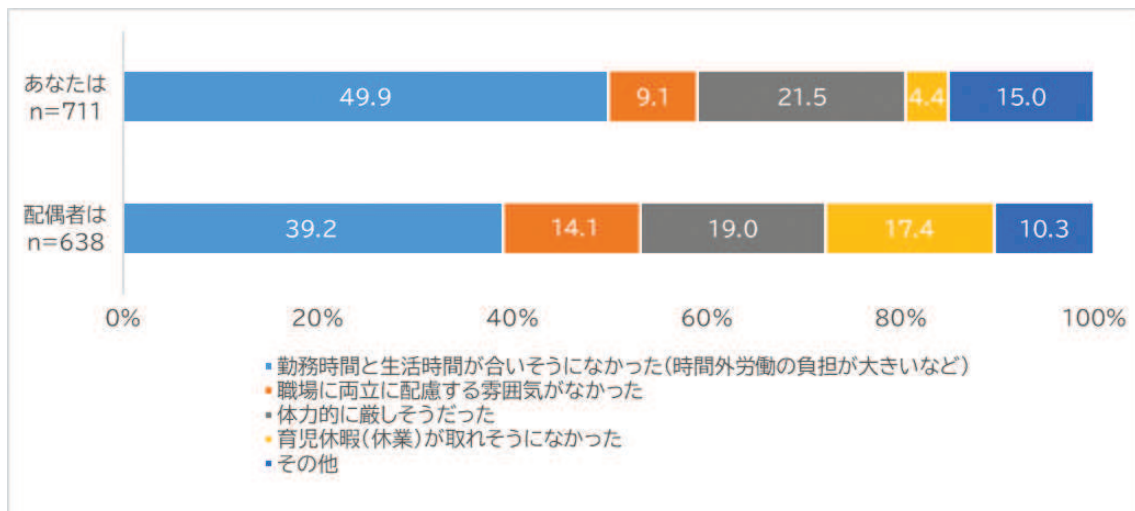
図表35 結婚や出産を機に仕事をやめた理由



(4) 仕事と家事・育児の両立において難しかったこと

- 回答者は「勤務時間と生活時間が合いそうになかった（時間外労働の負担が大きいなど）」が49.9%で最も多く、次いで「体力的に厳しそうだった」が21.5%、「職場に両立に配慮する雰囲気がなかった」が9.1%であった。
- 配偶者は「勤務時間と生活時間が合いそうになかった（時間外労働の負担が大きいなど）」が39.2%で最も多く、次いで「体力的に厳しそうだった」が19.0%、「育児休暇（休業）が取れそうになかった」が17.4%であった。

図表36 仕事と家事・育児の両立において難しかったこと

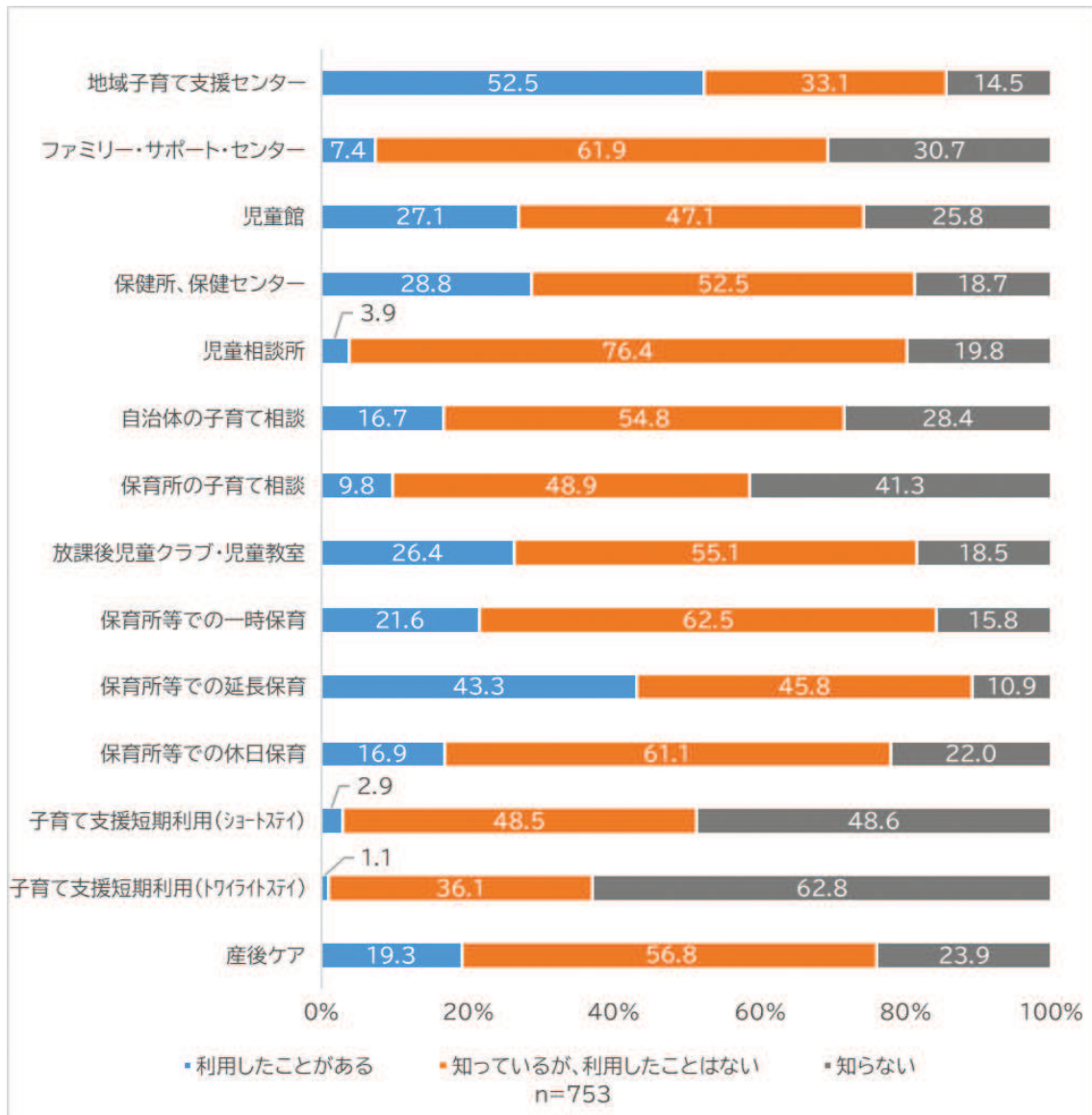


4. 地域子育て支援サービスの活動等について

(1) 地域子育て支援サービスの利用状況

- 利用したことがあると答えた人は「地域子育て支援センター」が52.5%で最も多く、次いで「保育所等での延長保育」が43.3%、「保健所、保健センター」が28.8%であった。

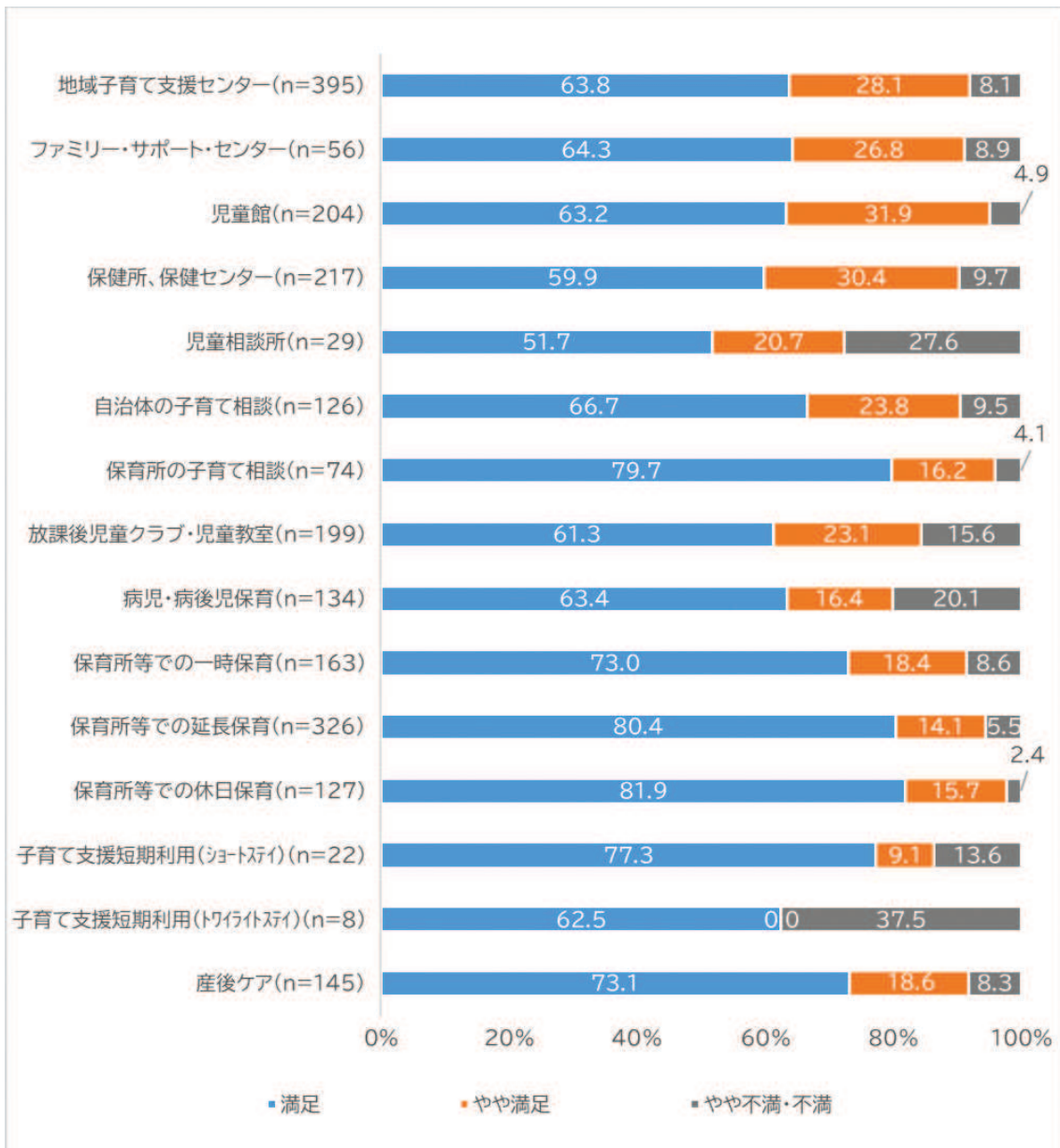
図表37 地域子育て支援サービスの利用状況



(2) 地域子育て支援サービスの満足度

- 満足と答えた人は「保育所等での休日保育」が81.9%で最も多く、次いで「保育所等での延長保育」が80.4%、「保育所の子育て相談」が79.7%であった。

図表38 地域子育て支援サービスの満足度

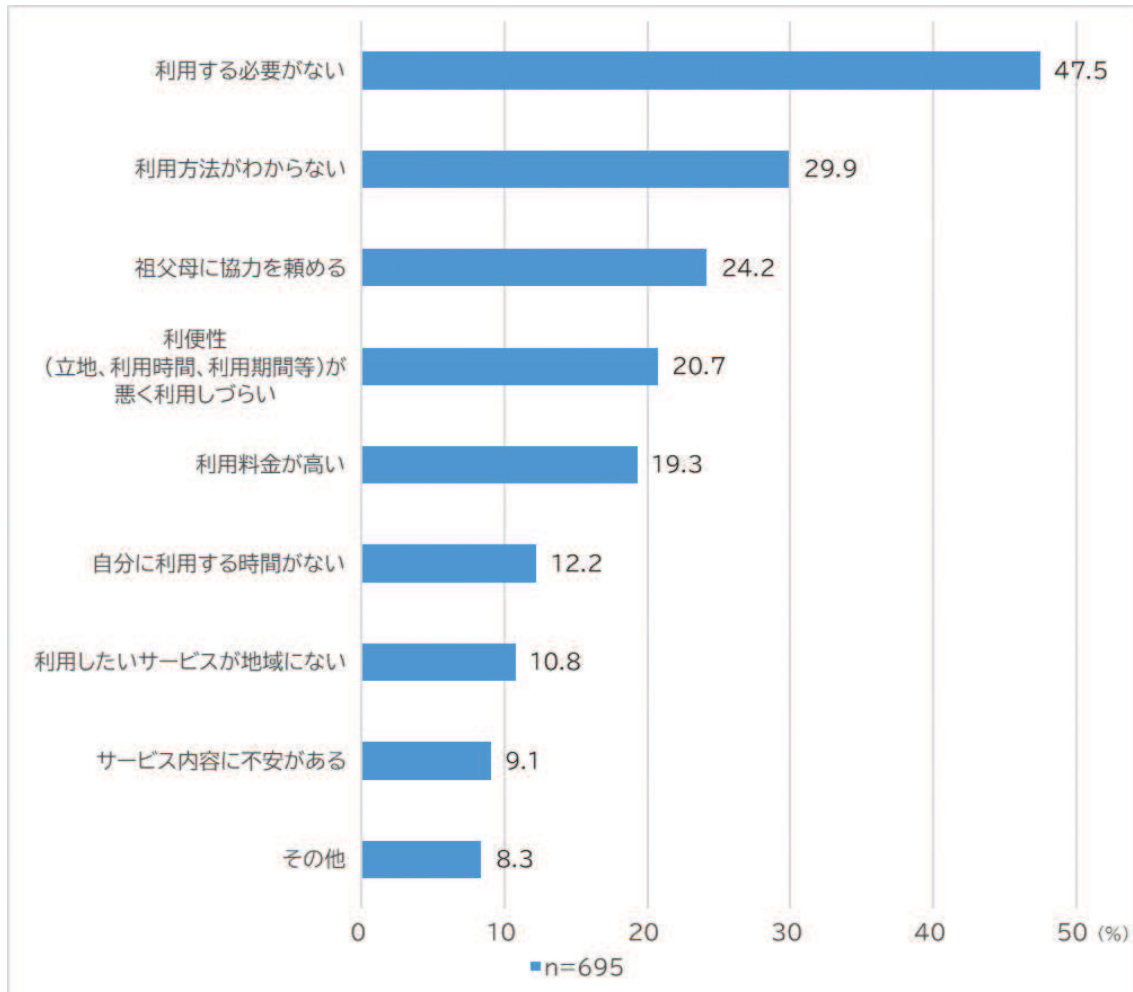


※ 地域子育て支援サービスを利用したことがあると回答した人を回答対象とした。

(3) 地域子育て支援サービスを利用できない・したことがない理由

- 「利用する必要がない」が47.5%で最も多く、次いで「利用方法がわからない」が29.9%、「祖父母に協力を頼める」が24.2%であった。

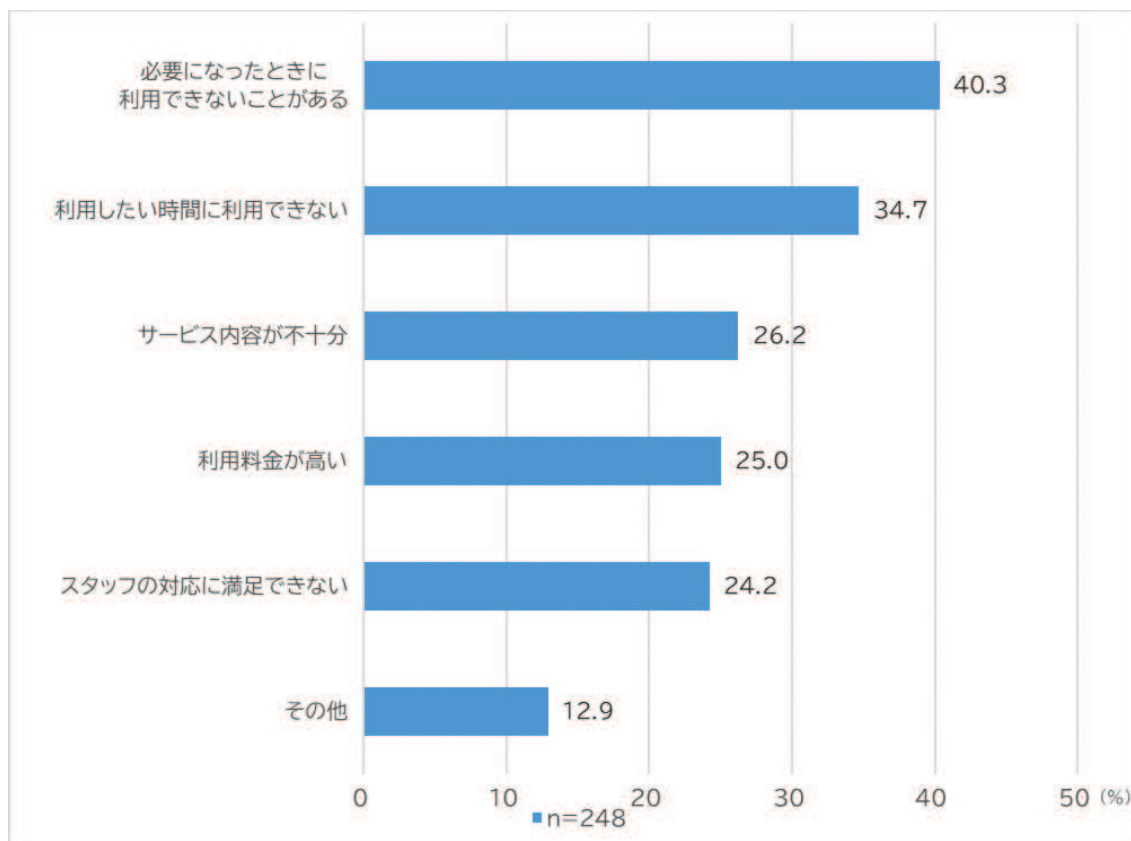
図表39 地域子育て支援サービスを利用できない・したことがない理由（複数回答）



(4) 地域子育て支援サービスの満足度が低い理由

- 「必要になったときに利用できないことがある」が40.3%で最も多く、次いで「利用したい時間に利用できない」が34.7%、「サービス内容が不十分」が26.2%であった。

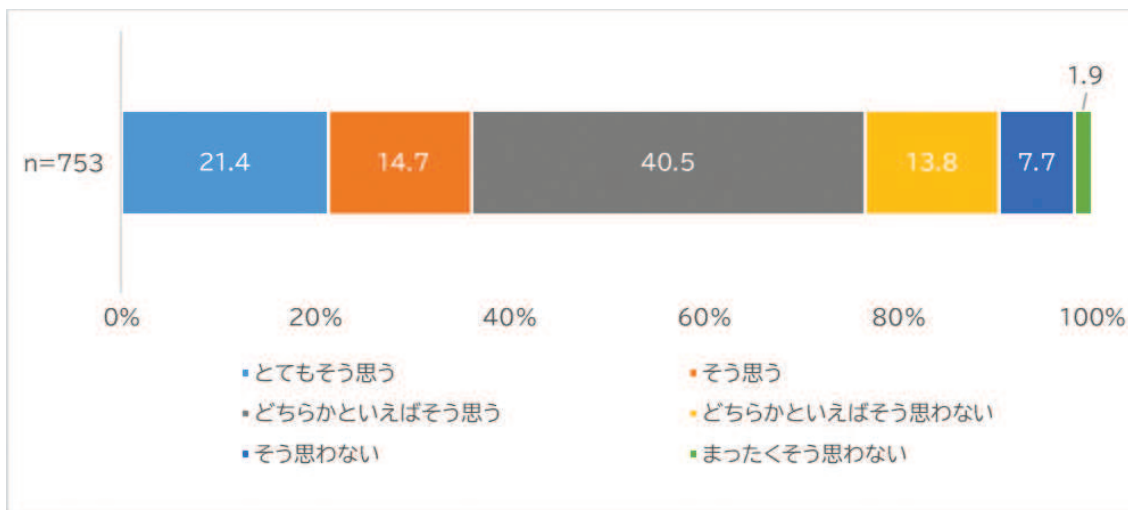
図表40 地域子育て支援サービスの満足度が低い理由（複数回答）



(5) 地域子育て支援サービスの環境が整っているかの意識

- 「どちらかといえばそう思う」が40.5%で最も多く、次いで「とてもそう思う」が21.4%、「そう思う」が14.7%であった。

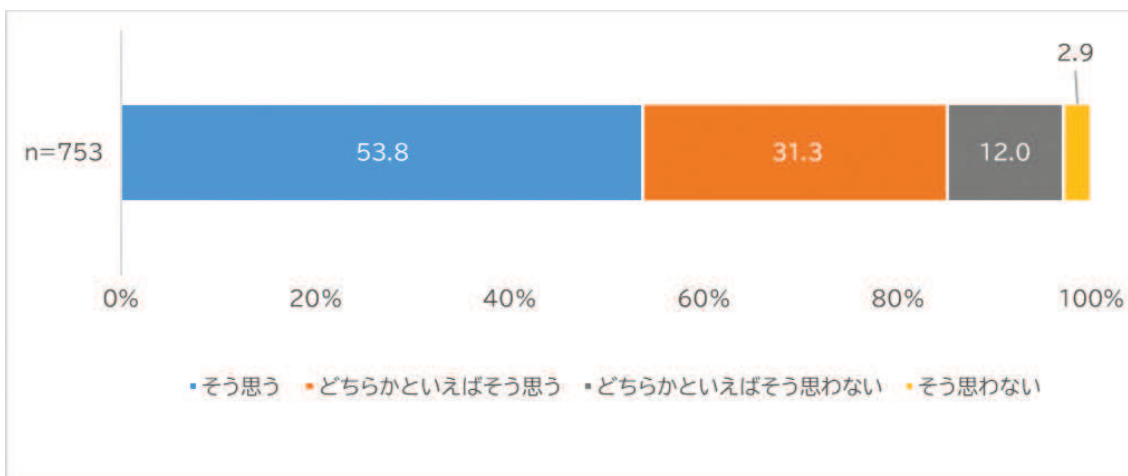
図表 4 1 地域子育て支援サービスの環境が整っているかの意識



(6) 子どもが安心して医療を受けられる環境が整っているかの意識

- 「そう思う」が53.8%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が31.3%、「どちらかといえばそう思わない」が12.0%であった。

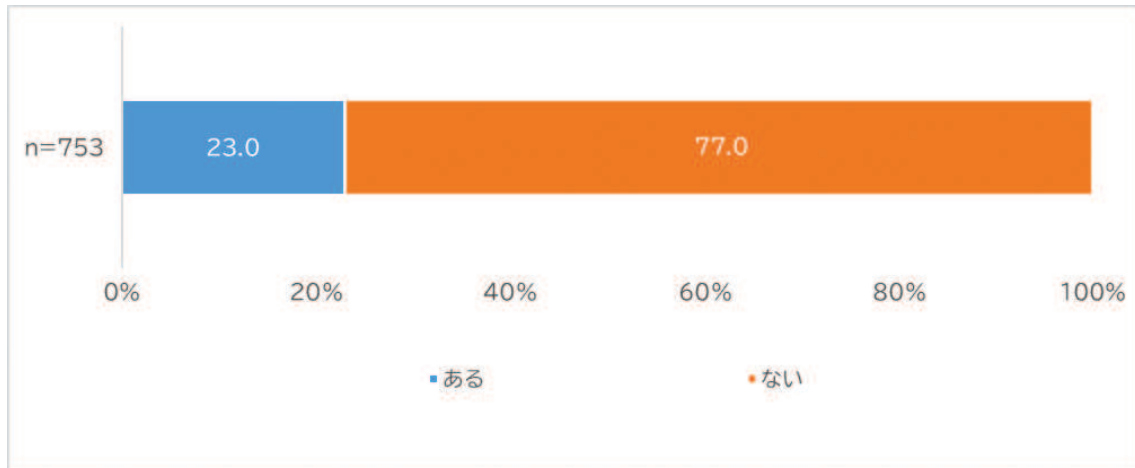
図表 4 2 子どもが安心して医療を受けられる環境が整っているかの意識



(7) 病児・病後児保育の利用

- 「ある」が23.0%、「ない」が77.0%であった。

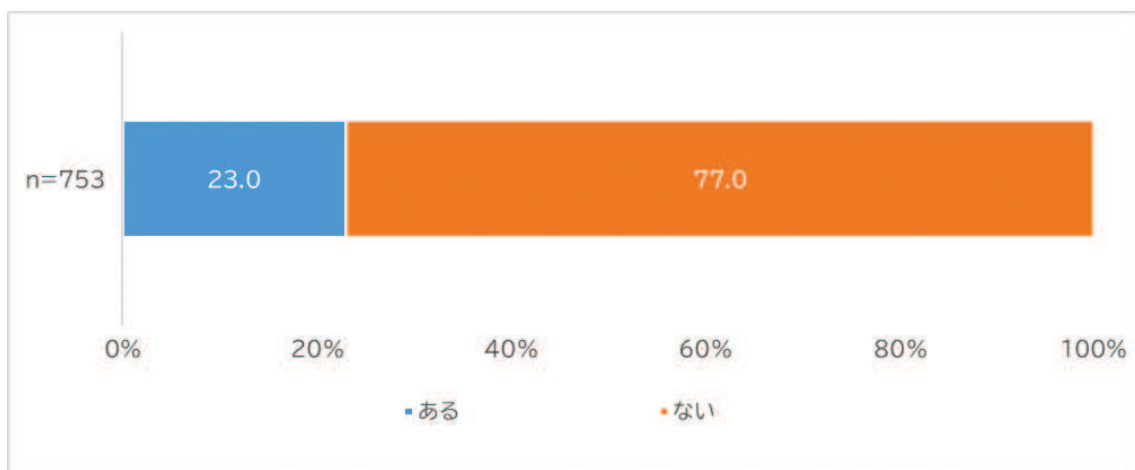
図表 4 3 病児・病後児保育の利用



(8) 病児・病後児保育が利用できなかった経験

- 「ある」が23.0%、「ない」が77.0%であった。

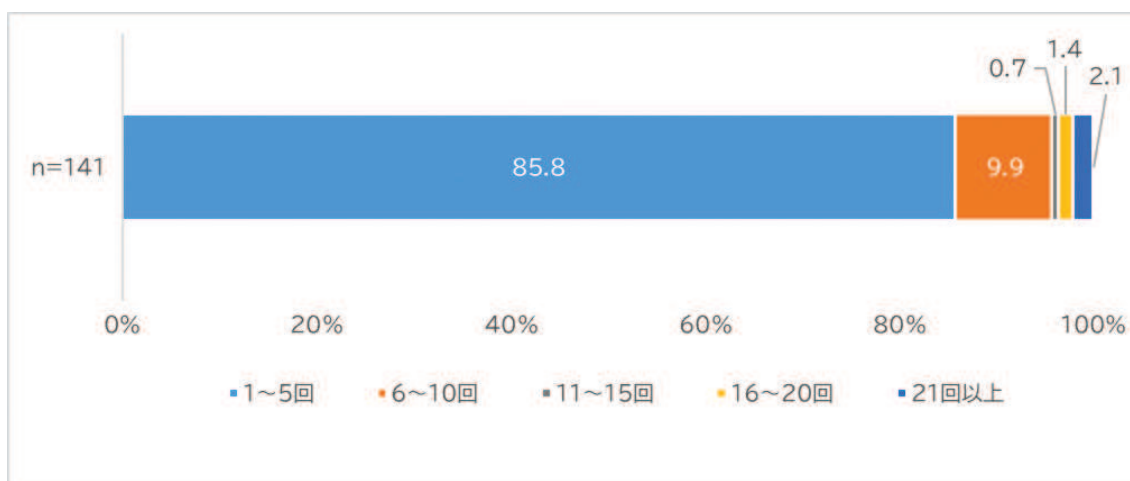
図表 4 4 病児・病後児保育が利用できなかった経験



(9) 病児・病後児保育が利用できなかった回数

- 「1～5回」が85.8%で最も多く、次いで「6～10回」が9.9%、「21回以上」が2.1%であった。

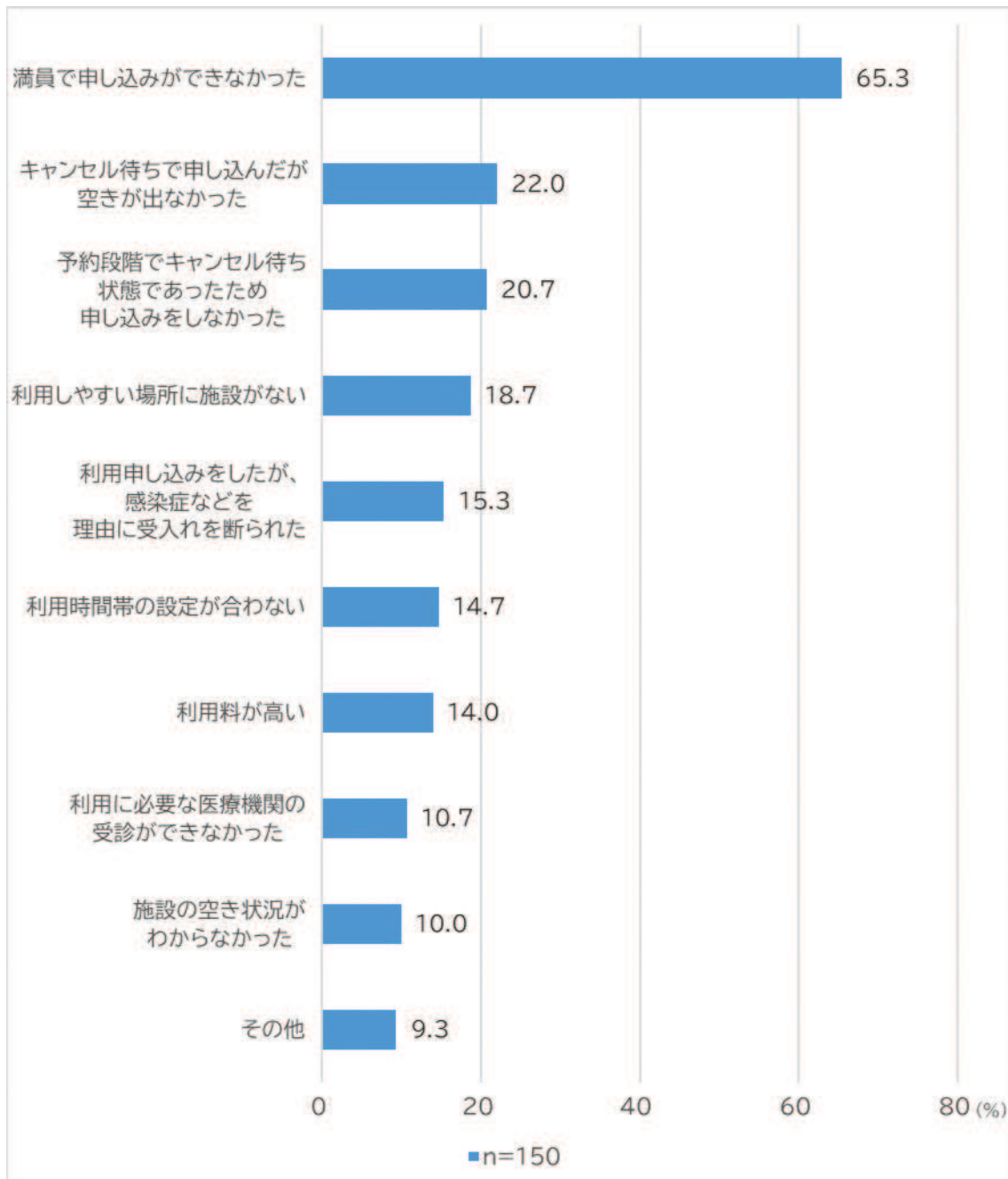
図表 4 5 病児・病後児保育が利用できなかった回数



(10) 病児・病後児保育が利用できなかった理由

- 「満員で申し込みができなかった」が65.3%で最も多く、次いで「キャンセル待ちで申し込んだが空きが出なかった」が22.0%、「予約段階でキャンセル待ち状態であったため申し込みをしなかった」が20.7%であった。

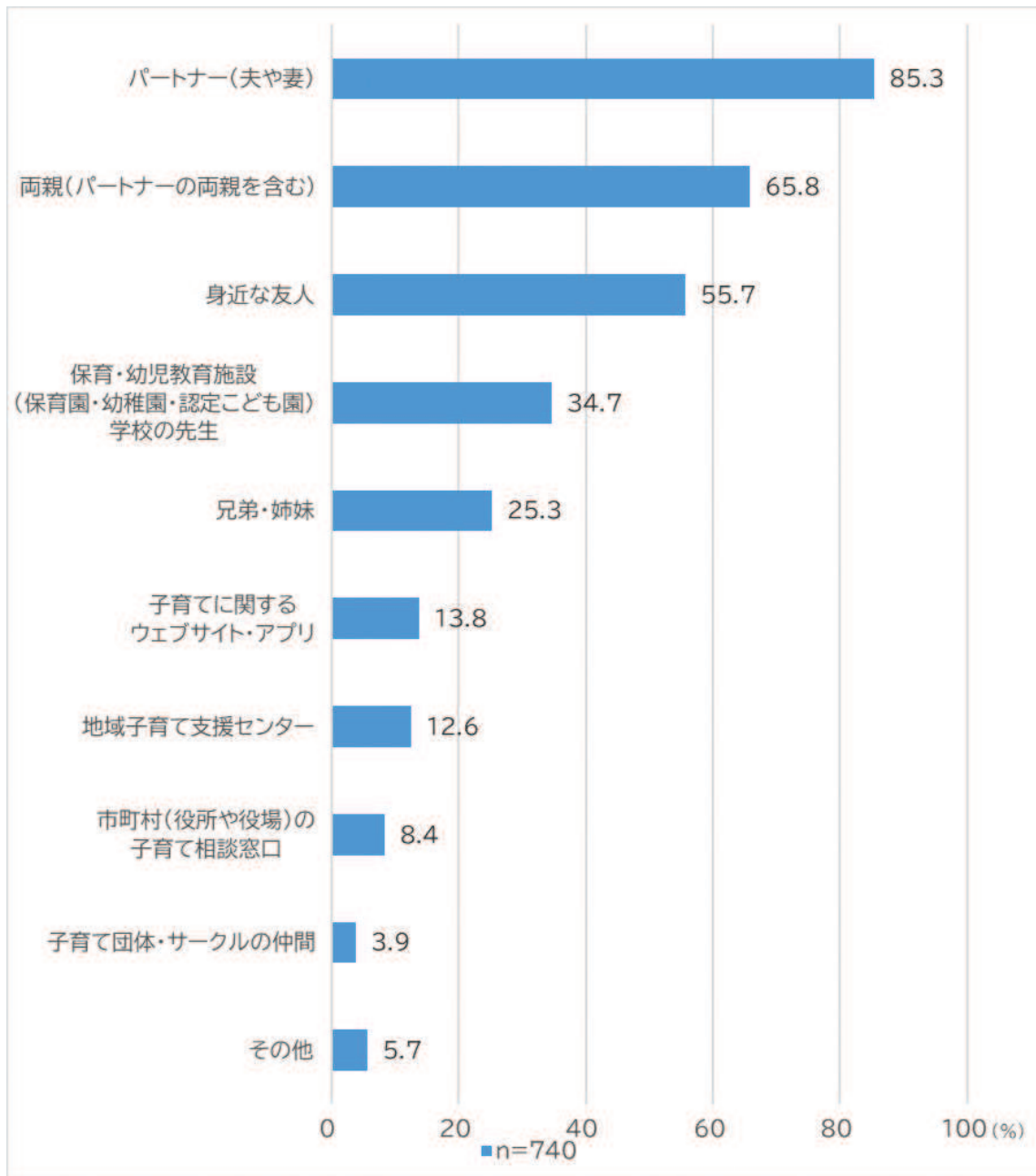
図表4-6 病児・病後児保育が利用できなかった理由（複数回答）



(11) 子育てに関する悩みの相談先

- 「パートナー（夫や妻）」が85.3%で最も多く、次いで「両親（パートナーの両親を含む）」が65.8%、「身近な友人」が55.7%であった。

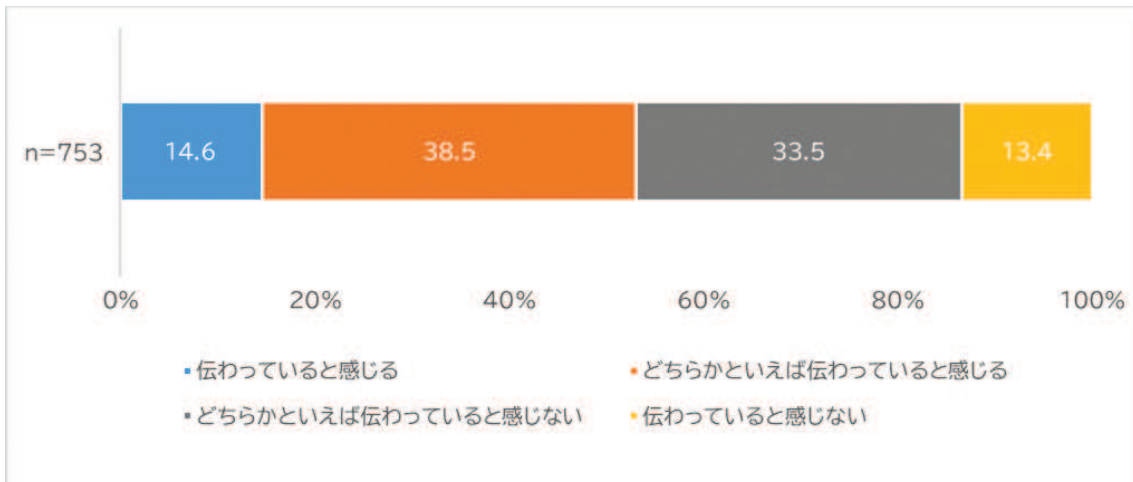
図表 4 7 子育てに関する悩みの相談先（複数回答）



(12) 行政から発信される妊娠・出産・子育てに関する情報の認知状況

- 「どちらかといえば伝わっていると感じる」が38.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば伝わっていると感しない」が33.5%、「伝わっていると感じる」が14.6%であった。

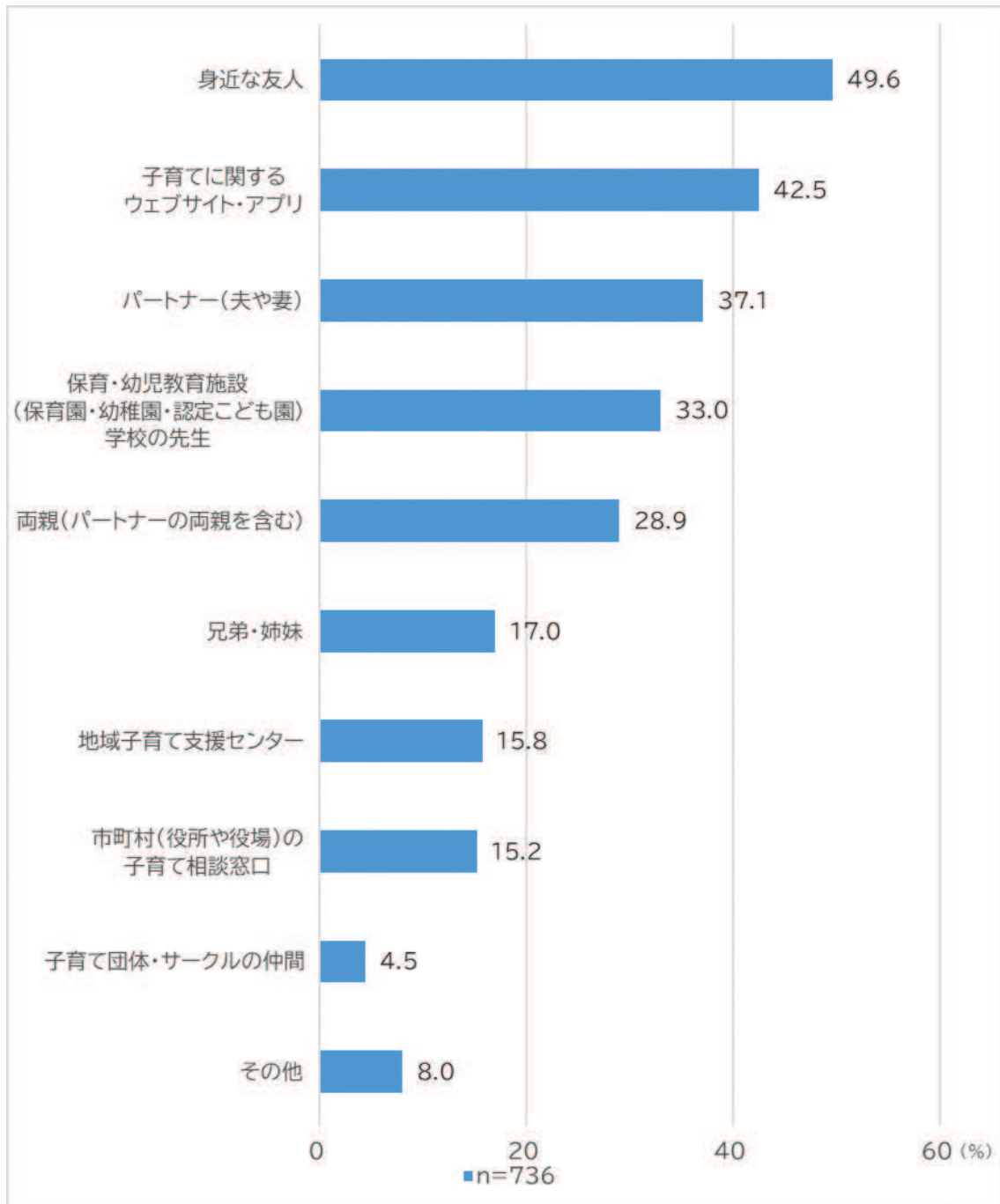
図表 4 8 行政から発信される妊娠・出産・子育てに関する情報の認知状況



(13) 妊娠・出産・子育てに関する情報源

- 「身近な友人」が49.6%で最も多く、次いで「子育てに関するウェブサイト・アプリ」が42.5%、「パートナー（夫や妻）」が37.1%であった。

図表 4 9 妊娠・出産・子育てに関する情報源（複数回答）

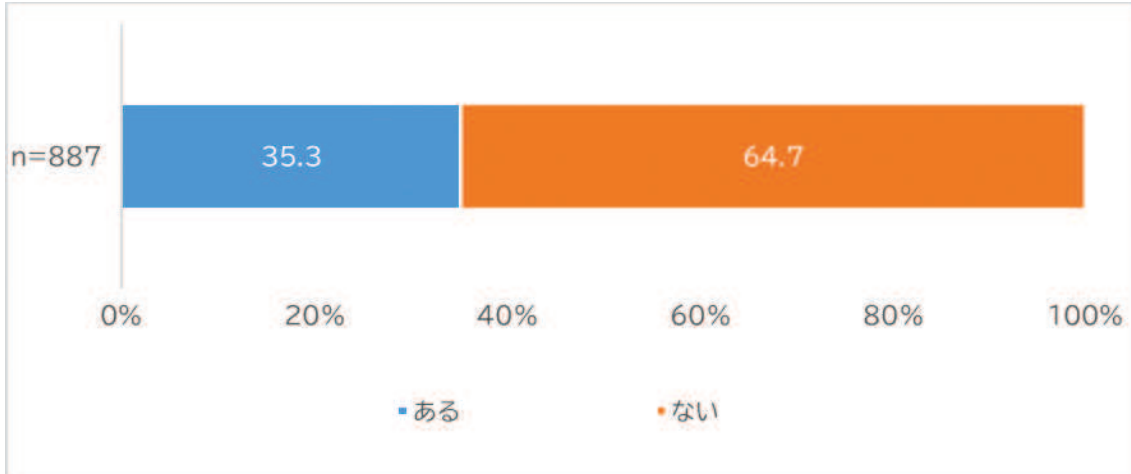


5. 不妊治療について

(1) 不妊治療の受診経験

- 「ある」が35.3%、「ない」が64.7%であった。

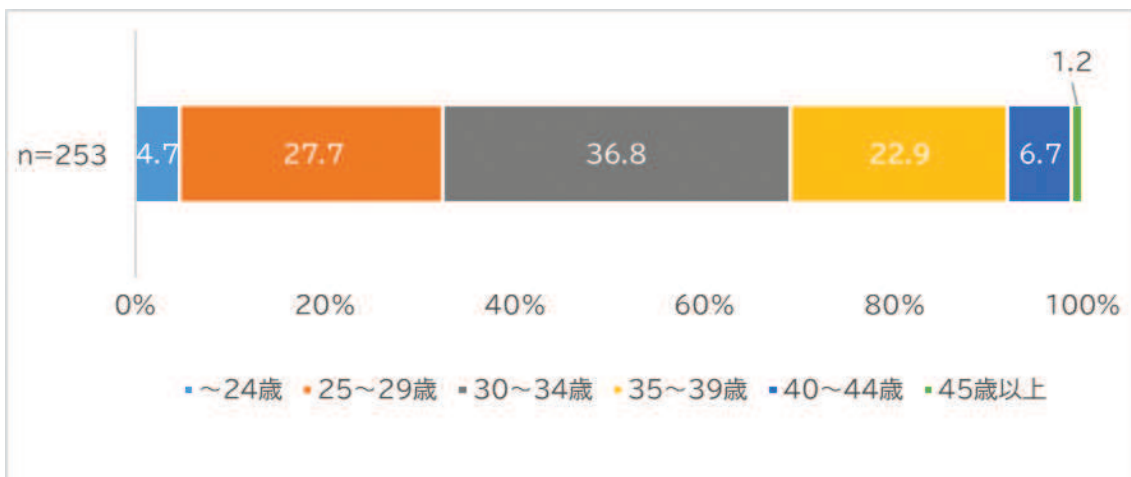
図表50 不妊治療の受診経験



(2) 不妊治療を始めた年齢

- 「30～34歳」が36.8%で最も多く、次いで「25～29歳」が27.7%、「35～39歳」が22.9%であった。

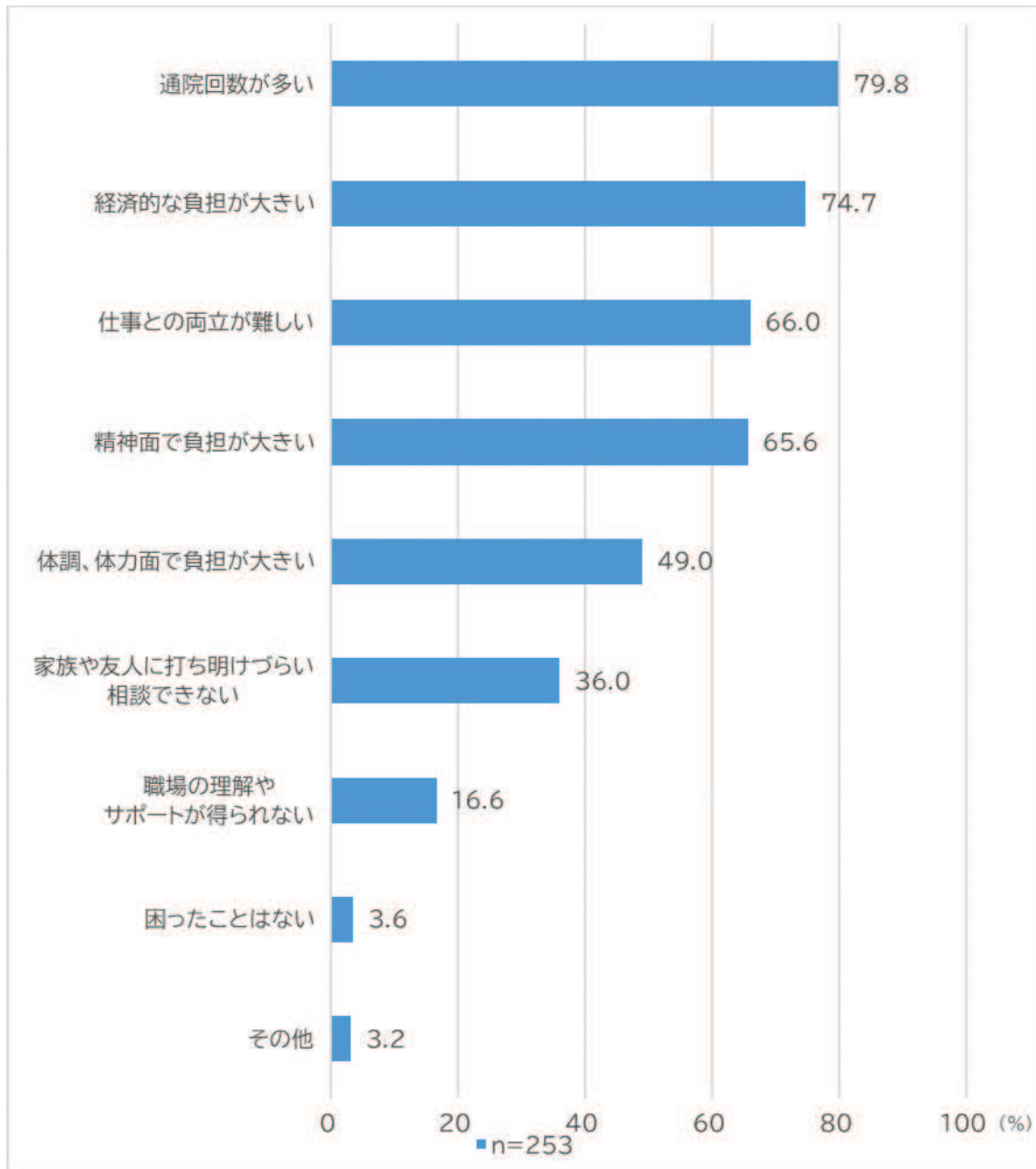
図表51 不妊治療を始めた年齢



(3) 不妊治療中において困難を感じたこと

- 「通院回数が多い」が79.8%で最も多く、次いで「経済的な負担が大きい」が74.7%、「仕事との両立が難しい」が66.0%であった。

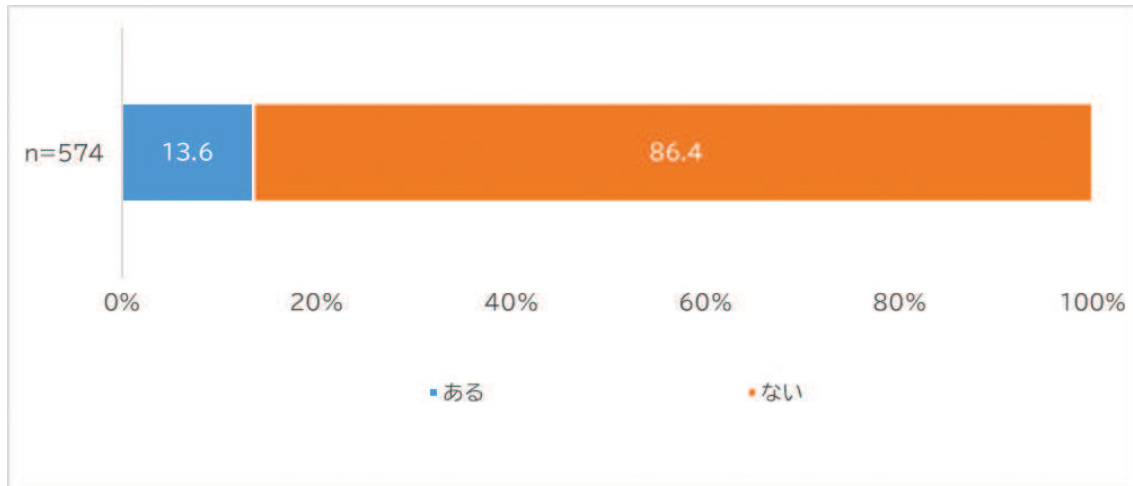
図表5 2 不妊治療中において困難を感じたこと（複数回答）



(4) 不妊治療受診の検討の有無

- 「ある」が13.6%、「ない」が86.4%であった。

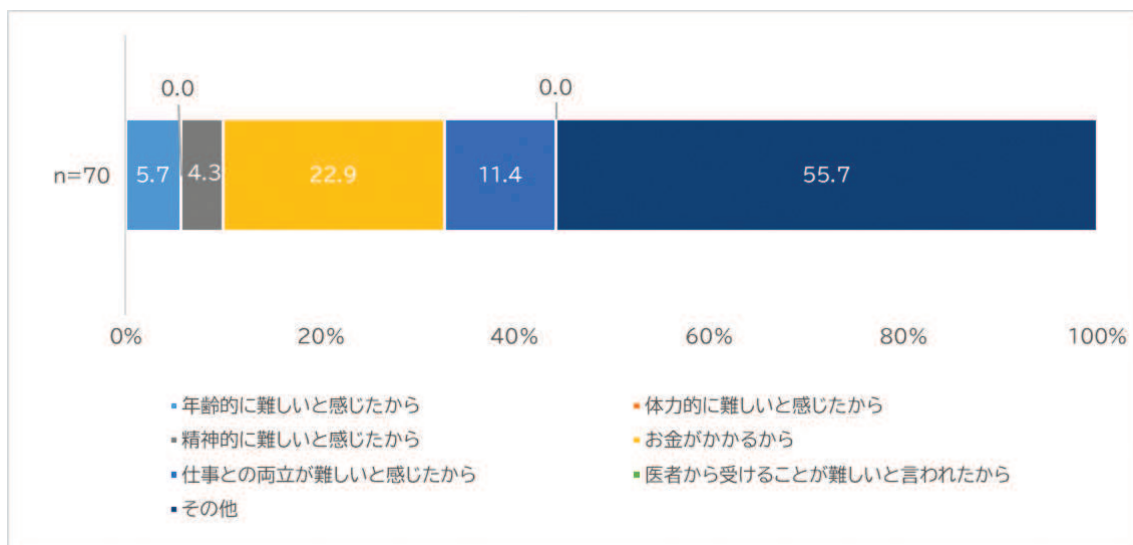
図表 5 3 不妊治療受診の検討の有無



(5) 不妊治療を受診しなかった理由

- 「お金がかかるから」が22.9%、「仕事との両立が難しいと感じたから」が11.4%、「年齢的に難しいと感じたから」が5.7%であった。なお、「その他」が55.7%で、その内訳として「治療前の自然妊娠」等があった。

図表 5 4 不妊治療を受診しなかった理由



6. 今後充実してほしい子育て支援策について

- 「仕事と家庭の調和がとれた働き方実現のための職場環境の整備」が48.0%で最も多く、次いで「妊娠・出産しても働き続けられる職場環境の整備」が46.7%、「進学のための奨学金給付」が28.5%であった。

図表55 今後充実してほしい子育て支援策について（複数回答）

